

# 「京丹後市消防団員意識調査」と

## 今後の取り組みについて



令和4年8月

京丹後市

## はじめに

消防団は地域に密着した「地域防災力の中核」として重要な役割を担っていますが、近年、団員数は減少傾向にあります。将来にわたり消防団組織を維持していくため、「京丹後市消防団員意識調査(資料)」を実施し、消防団を取り巻く環境の把握・分析を行い、取り組むべき事項について対応策として取りまとめました。

対応策として、まずは、消防団員の処遇改善について、4月から団員の年額報酬及び出動報酬の増額改定を行いました。また、6月に実施した第10回京丹後市消防操法競技大会については、負担軽減を考慮した消防操法訓練を実施するなど、改善を図ってきました。

今後も更に、処遇改善のほか消防団活動に対する理解や団員確保についての対応策を推進し、ひいては地域防災力の一層の充実・強化に繋がるよう工夫改善を図っていきます。

令和4年8月

京丹後市消防本部

消防長 廣野 克巳

## 1 京丹後市消防団員意識調査

### (1)意識調査の目的

消防団員数が全国的に減少傾向にあるなか、「地域防災力の要」である消防団組織を将来にわたりその体制を維持し、消防団活動を確保すべく、消防団運営に必要となる基礎資料としての情報収集(以下「アンケート」という。)を行った。

### (2)対象

部長以下階級の団員 1,435 名

※支援団員(56名)を除き、指導員(副分団長級)を含む

全団員(1,579名:令和3年6月現在)に占める割合(約90.9%)

### (3)実施期間

令和3年6月～9月

### (4)実施方法

調査書又はWEBフォームによる任意回答

### (5)回答状況

66.9%(960名/1,435名)

※資料「京丹後市消防団員意識調査」参照

全団員(1,579名:令和3年6月現在)に占める割合(約60.8%)

### (6)設問

24項目

## 2 調査結果の主な傾向

(1) 98.4%が市内に居住し、約6割の団員が所属部内に居住している。

(2) アンケート対象を部長以下としたため、勤続10年以下が約半数。勤続年数20年以上の団員は約15%であった。

(3) 企業等に就労する被雇用者率は80.9%と全国(73.9%※令和2年度消防白書)に比して高く、勤務先企業等の理解や協力が必要である。

(4) 地域内の先輩団員の勧誘による入団が約9割を占めている。

(5) 自ら進んでの入団や地域への貢献など積極的な入団動機をもつ団員がある一方、慣習的な入団を動機とする団員も同程度ある。

(6) 入退団の適齢について、入団は24歳～26歳、退団は36歳～40歳が最も多く、約9割が45歳までの退団を適齢としており、消防団への加入年数は、約9割が20年以内を適切としている。

- (7) 幹部への登用や今後の活動継続について、消極的な傾向が高い。
- (8) 消防団活動を通じて「知人・仲間を増やせた」、「地域に貢献できた」、「防災・減災の意識が高まった」など、新たな人間関係の構築や地域への貢献に対する評価が高く、「火災現場での消火活動」、「大雨時の警戒や水防活動」、「自治会(区)などの地域行事サポート」など、消防団員として、住民の安心・安全を守る地域防災の要として、重要な役割を果たしていることへのやりがいを感じている。
- (9) 消防団活動で不満に思うことは、「ポンプ操法訓練の負担が大きい」とする回答が最も多く、次いで、「報酬や手当が少ない」、「家族へ迷惑がかかる」、「本業への支障がある」、「団行事が多い」などの回答順であった。
- (10) 消防団活動について、36%が「ほぼ全部出動」としているが、生業の優先や雇用者である会社等から消防団活動への理解が得られにくい、消防団活動は有給扱いになることなどが、活動参加への障害要因になっている。また、体力的な負担を要因とする団員もいる。
- (11) 所属の団員数について、約3割が不足を感じており、時間帯で見ると「平日日中」が5割以上、「常に」が3割に上る。
- (12) 消防団組織について、「他の方面隊のことは知らない、関心がない」、「現状のままで良い」など、合併前の組織構成に対する問題意識、関心は低い。
- (13) 新入団員の勧誘について、勧誘経験がある団員のうち約88%が入団を拒否された経験があると回答し、ポンプ操法訓練や仕事への影響、家族の理解などを理由に挙げている。
- (14) 新入団員確保への良策として、「報酬・手当の増額」、「ポンプ操法訓練の負担軽減」の回答が半数以上を占めた。次いで、「団員・家族の優遇制度の充実」となった。また、「装備や資機材の充実」、「実践的な訓練を増やし技術を向上」など、地域の実態に即した災害対応訓練の必要性も望んでいる。
- (15) 将来を見据えた団員確保や組織運営については、「消防団を縮小し常備消防を充実すべき」の他、「隣接する複数の部・班を統合すべき」や「消防経験者によるサポート制度を拡充すべき」など、新たな形を模索する回答も多い。

### 3 調査結果の分析と今後取り組むべき対応策

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」に「消防団は将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在である」と明記されている。地域密着力、要員動員力、即時対応力という3つの特性を有する消防団について、本市においても消防団組織を将来にわたり体制を維持していくことが不可欠です。今回のアンケートを踏まえ、団員が感じる消防団活動に対する負担感などを排除し、安定的な団員確保に向けて対策を講じていく必要があることから、次のことに取り組んでいきます。 ※ 令和4年度に取り組んだ対応策(下線部分)

### (1)消防団活動に対する負担軽減について

消防団活動として行う様々な訓練や行事について、その回数や内容について負担感を訴える声がありました。なかでも「ポンプ操法」に対する意見は多く、「ポンプ操法」訓練への負担に加え、「ポンプ操法」のイメージが、新入団員確保へ影響していることも懸念されます。

「ポンプ操法」は、火災現場における安全、確実、迅速な活動に必要な知識・技能を習得するために必要な訓練として実施されているものですが、一方では操法大会は競技性を有する一面も多分にあることから、訓練が過度な負担となる状況もありました。

今回のアンケートを踏まえ、「ポンプ操法」訓練に対する負担軽減について検討を行い、令和4年度に取り組む訓練については、「ポンプ操法」を行う意義と目的を理解し、操作員に偏った競技性重視の訓練にならないよう、市操法大会への出場隊数の半減や出場隊選出のための方面隊点検を実施しないなど、「負担軽減対策」として取り組みました。

その他、各種行われる訓練や行事についても、それぞれの実施目的や内容について精査を行うとともに、実態に即した災害対応の訓練を充実させるなど、団運営における幅広い意見交換を行い、消防団活動に対する負担軽減について、引き続き、検討・対策を行ってまいります。

### (2)処遇の改善について

年々災害が多発化・激甚化する中、消防団員が担う役割も多様化しており、一人ひとりの消防団員の負担も大きくなっています。消防団員の士気向上や家族等の理解を一層深めるためにも、消防団員の処遇改善は重要であり、消防団活動への参加や団員確保にもつながるものです。

団員に対する報酬等については、階級（役職）に応じた年額報酬と出勤等に応じた出勤手当があり、本市においては令和4年度の取り組みとして、報酬等に関する国の示す標準額以上となるよう、班長、団員階級の年額報酬及び出勤等に関する報酬について、大幅な増額を行うことで処遇改善を図りました。

また、災害現場活動における安全管理向上を目的とした、高視認性活動服の導入を決定し、令和4年度に更新貸与することとしています。

消防団活動を支えていただいているご家族等についても、「消防団応援の店」制度の周知や一層の拡充など、処遇改善に取り組んでいきます。

### (3)消防団活動へ参加について

被雇用者率が80%以上であることが示しているように、特に就業時間帯における消防団活動への参加については、企業等の理解・協力が不可欠であり、消防団協力事業所表示制度を含めた企業側への協力依頼を引き続き行っていくとともに、京都府等関係機関との連携を図り、企業側のインセンティブについて検討し取り組んでいきます。

また、多様化する価値観や生活様式も考慮した運営となるよう、年代、職業等を超えた活発な意見交換ができる風土づくりに努め、生業や家庭等への影響にも考慮した、過度な負担と感じない活動の在り方について検討を行ってまいります。

#### (4) 団員確保について

消防団及びその活動を正しく理解していただくことが重要であり、消防団の活動や取り組みについて、さまざまな広報媒体を活用し積極的に発信し、広く市民から消防団活動への理解と一層の協力・評価を得られることが、団員の達成感や充実感など「やりがい」につながるものであり、「モチベーションアップ」と「イメージアップ」に取り組んでいきます。

また、過度な負担感を感じて敬遠されがちな訓練や行事についても、引き続き検討・対策を行い、団員確保へつなげていきます。

先輩団員の勧誘、地域の人との交流促進が新入団員確保に大きな役割を果たしており、地域コミュニティのさらなる醸成に加え、成人式などの機会を捉えた募集案内を引き続き行い、加えて女性団員の確保に取り組んでいきます。

#### (5) 将来的な消防団組織について

全国的な傾向と同じく、団員数の減少が続いているなか、広大なエリアをカバーする本市消防団は、居住・就業等の地域特性により、団員確保や昼夜の管内団員数の差など、それぞれの課題を有しています。

平成 28 年の組織再編から現在に至りますが、経年による団員数減少により、現状の団員数では消防団活動に不安を感じる部等も伺える状況にあり、団員数が減少しても、守るべき管轄エリアは変わらず、長期的な展望に立った対策が必要と考えています。

回答から、まずは現状の方面隊体制の中で、統合等も含めた再編を行いながら、方面隊相互の連携をより進めていくことが、当面の組織像として見えて来ます。

消防団は将来にわたり地域防災力として継承されていかななくてはならない存在であることから、持続可能な消防団体制の構築について、慎重かつ効果的な議論、検討を行っていきます。

#### 4 意識調査を終えて(総括)

消防団活動について、個人差はあるが負担感を感じながらも、自らが行う消防団活動が地域に貢献していることや、自身の防災・減災意識の高まりや地元コミュニティの醸成を感じるなど、消防団の存在意義や担う役割の重要性を認識していることが伺えました。

また、火災現場での消火活動の他、近年の風水害における活動について、警戒段階から危険が予測される箇所のパトロールや住民避難の呼びかけ、避難誘導など使命感をもって消防団活動に従事されています。

災害対応は自らの危険をも伴う活動ですが、地域の安全・安心の要として、消防団活動に「やりがい」を見て取れました。

今後も、諸課題に対処しつつ消防団体制のあり方について、引き続き検討を進めていきます。

## 京丹後市消防団員意識調査結果

## 【資料目次】

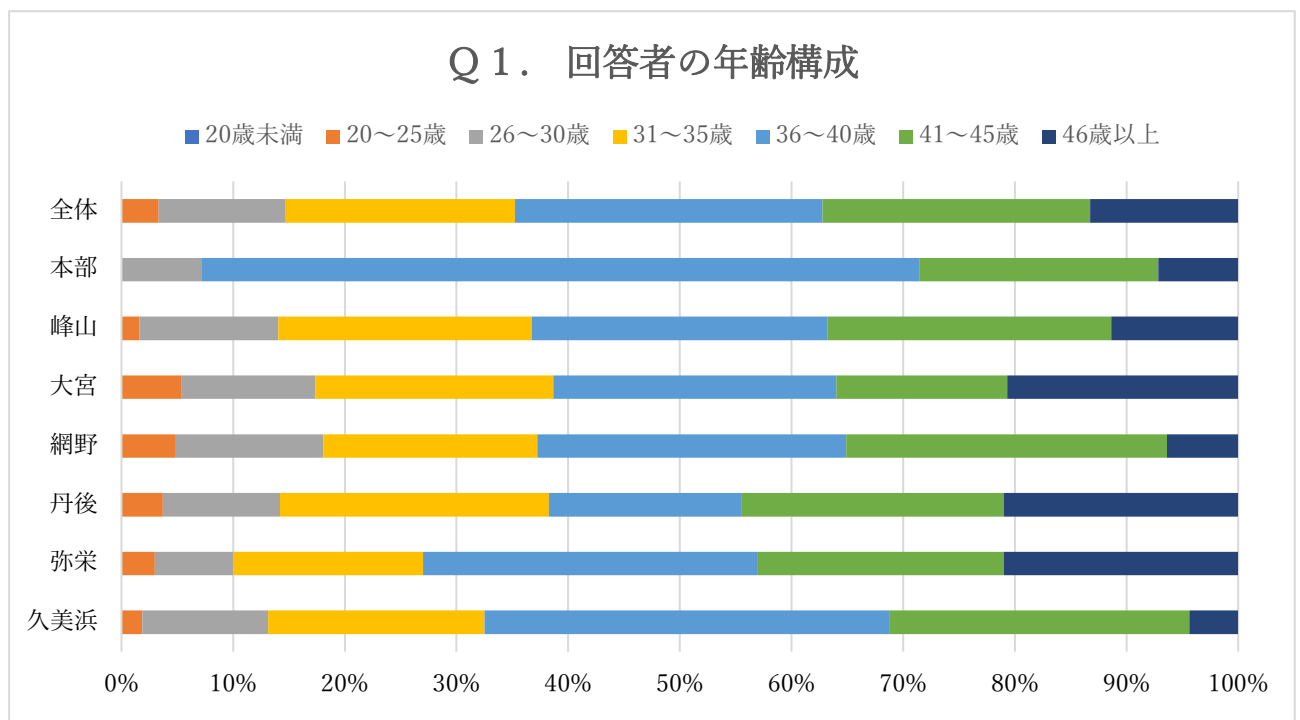
Q1	回答者の年齢	.....	P 8
Q2	所属方面隊	.....	P 9
Q3	居住地区(所属部内等)	.....	P10
Q4	消防団加入期間	.....	P11
Q5	役職歴(部長以上、班長経験等)	.....	P12
Q6	主たる職業	.....	P13
Q7	入団のきっかけ	.....	P14
Q8	入団を決心した最大の理由	.....	P15
Q9	適切な入団期間	.....	P16
Q10	入団の適齢	.....	P17
Q11	退団の適齢	.....	P18
Q12	今後の活動希望期間	.....	P19
Q13	幹部(部長以上)への就任希望有無	.....	P20
Q14	消防団活動の良かった点(2つまで)	.....	P21
Q15	消防団活動のやりがい(2つまで)	.....	P22
Q16	消防団活動の不満な点(2つまで)	.....	P23
Q17	出勤頻度	.....	P24
Q18	不参加の理由(2つまで)	.....	P25
Q19-1	人員の状況(不足等の有無)	.....	P26
Q19-2	人員不足を感じる時間帯	.....	P27
Q20	組織に対しての思い	.....	P28
Q21	勧誘活動経験の有無	.....	P29
Q22	団員確保についての良策(2つまで)	.....	P30
Q23	将来的に団員が確保できない場合の対応(2つまで)	.....	P31
	◆各設問における自由記載等(要約)	.....	P33
	その他、書ききれなかった内容や意見(要約)	.....	P36



Q1 あなたの年齢をお答えください。

年齢	全団	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
20歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0
20～25歳	32	0	3	8	9	6	3	3
26～30歳	109	1	23	18	25	17	7	18
31～35歳	197	0	42	32	36	39	17	31
36～40歳	264	9	49	38	52	28	30	58
41～45歳	230	3	47	23	54	38	22	43
46歳以上	127	1	21	31	12	34	21	7
合計	959	14	185	150	188	162	100	160

※ 無回答1名(久美浜)を除く



※ 無回答1名(久美浜)を除く

市消防団員の平均年齢(支援団員56名を除く)は37.35歳であり、最も平均値に近い年代の回答が多い。(約27.5%)

(参考)消防団員の平均年齢

R3.4.1 現在

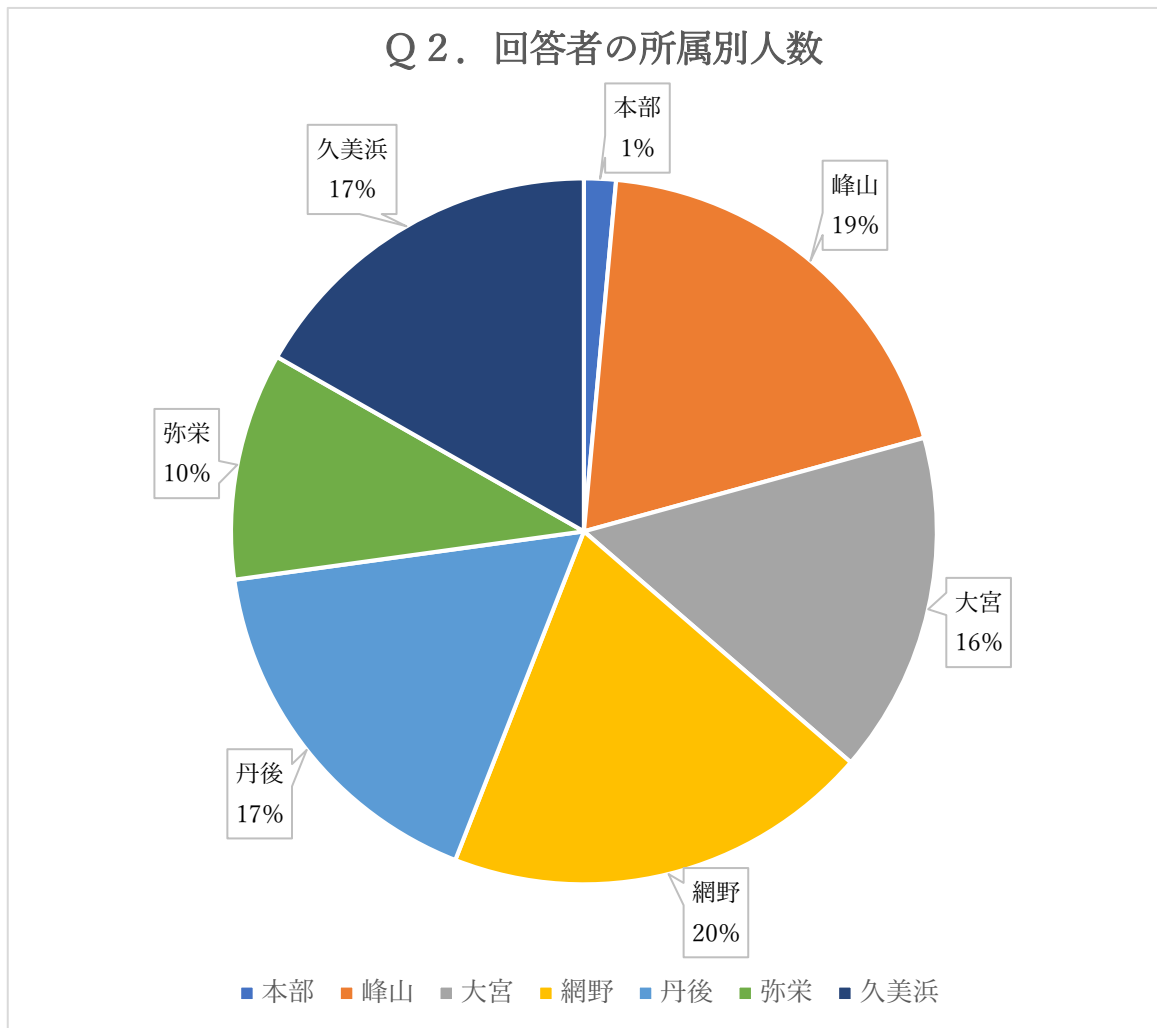
全体	所属等						
	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
38.18	38.44	37.23	39.56	36.88	39.58	40.08	36.97

(支援団員(56名)を除くと)

全体	所属等						
	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
37.35	38.44	37.23	38.28	36.24	38.07	37.76	36.97

Q2 あなたの所属方面隊をお答えください。

所属	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合計
人数	14	185	150	188	162	100	161	960



回答者の所属別割合は、丹後方面隊(75.0%)が最も高く、次いで久美浜方面隊(67.9%)、峰山方面隊(59.7%)となり、本部以外はすべて50%以上の回答率となった。

方面隊別所属人数(ラッパ鼓隊員は方面隊の所属として算定)

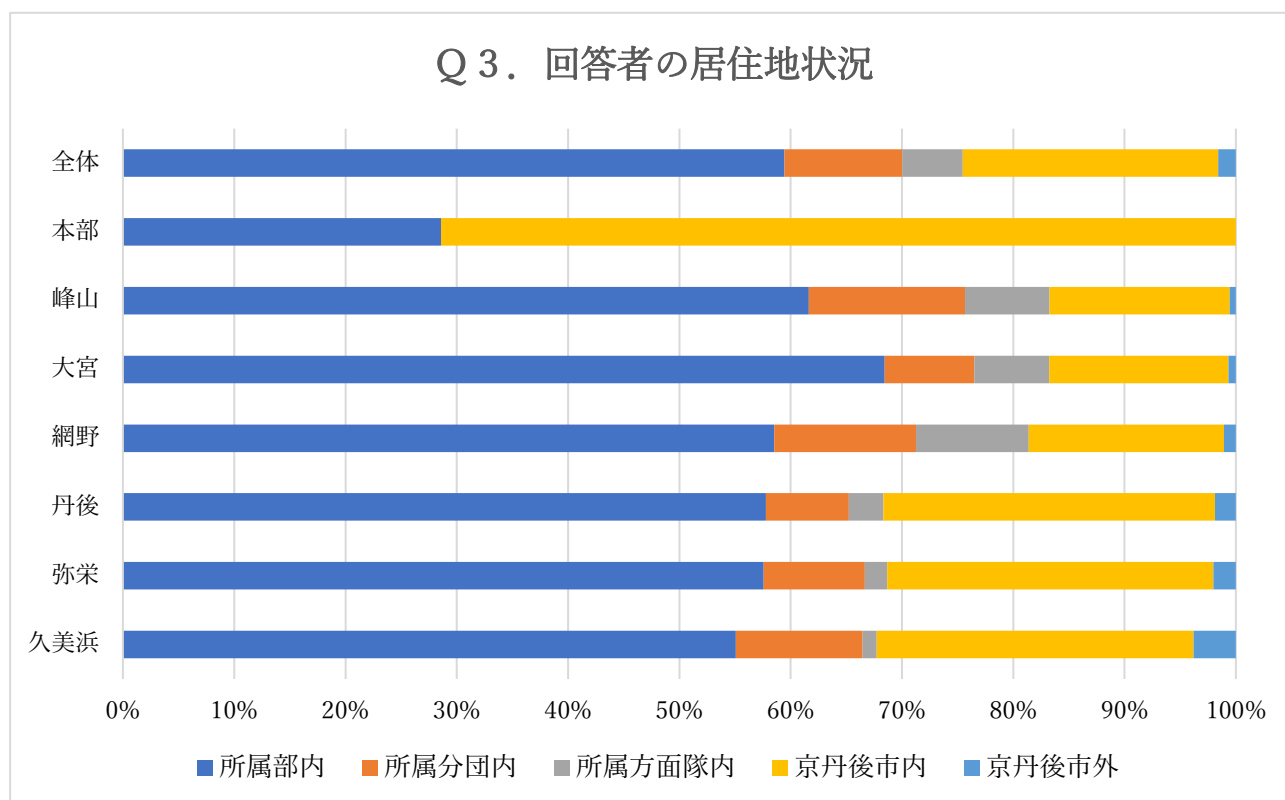
R3.4.1 現在

所属	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合計
人数	41	310	255	335	216	185	237	1,579

Q3 あなたの現在のお住いの地域(区域)を教えてください。

居住地	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
所属部内	567	4	114	102	110	93	57	87
所属分団内	101	0	26	12	24	12	9	18
所属方面隊内	52	0	14	10	19	5	2	2
京丹後市内	219	10	30	24	33	48	29	45
京丹後市外	15	0	1	1	2	3	2	6
合計	954	14	185	149	188	161	99	158

※ 無回答6名(大宮、丹後、弥栄各1、久美浜3)を除く

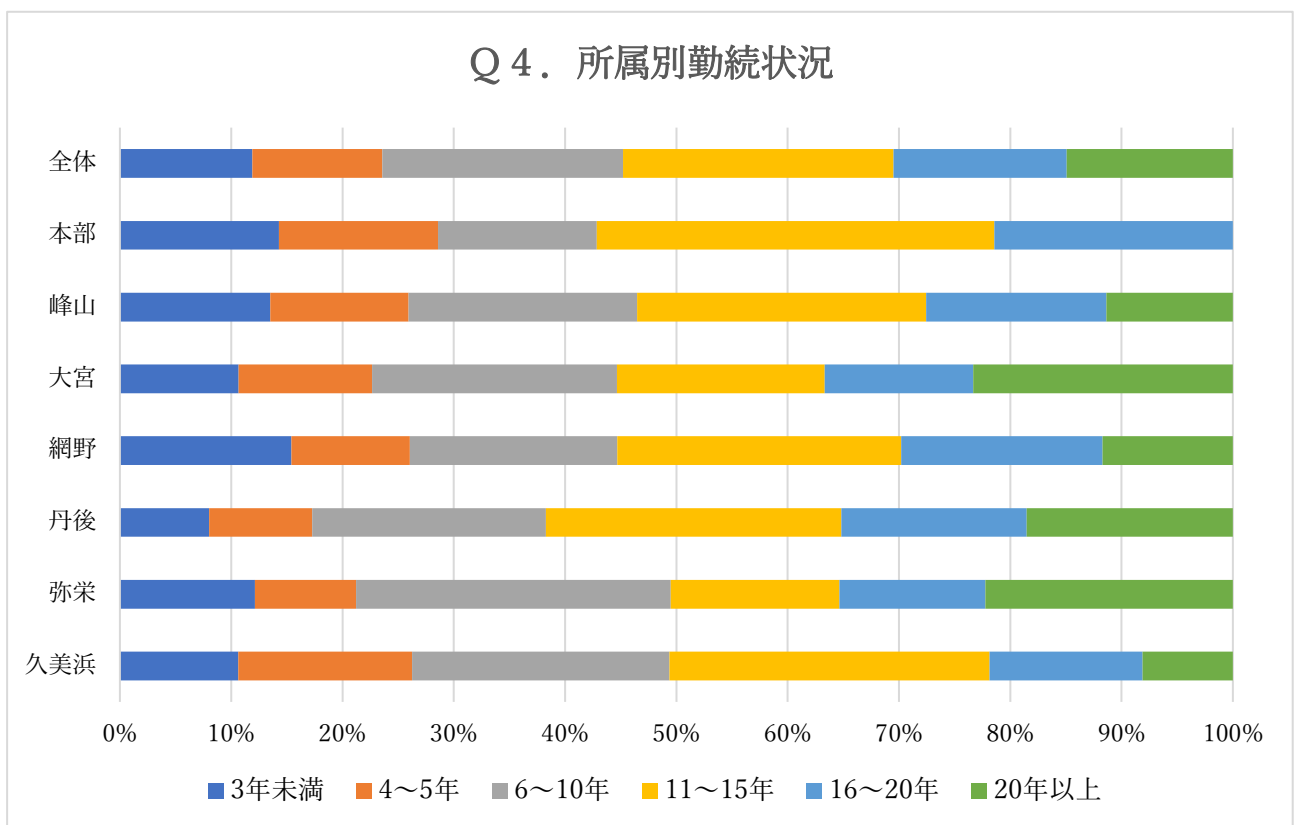


回答者の居住地は、所属部内が最も多く、約6割となっている。また、所属分団内、所属方面隊内の居住で75.5%、市内居住で98.4%という状況である。

Q4 あなたの消防団加入期間を教えてください。

加入期間	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
3年未満	114	2	25	16	29	13	12	17
4～5年	112	2	23	18	20	15	9	25
6～10年	207	2	38	33	35	34	28	37
11～15年	233	5	48	28	48	43	15	46
16～20年	149	3	30	20	34	27	13	22
20年以上	143	0	21	35	22	30	22	13
合計	958	14	185	150	188	162	99	160

※ 無回答2名(弥栄、久美浜各1)を除く

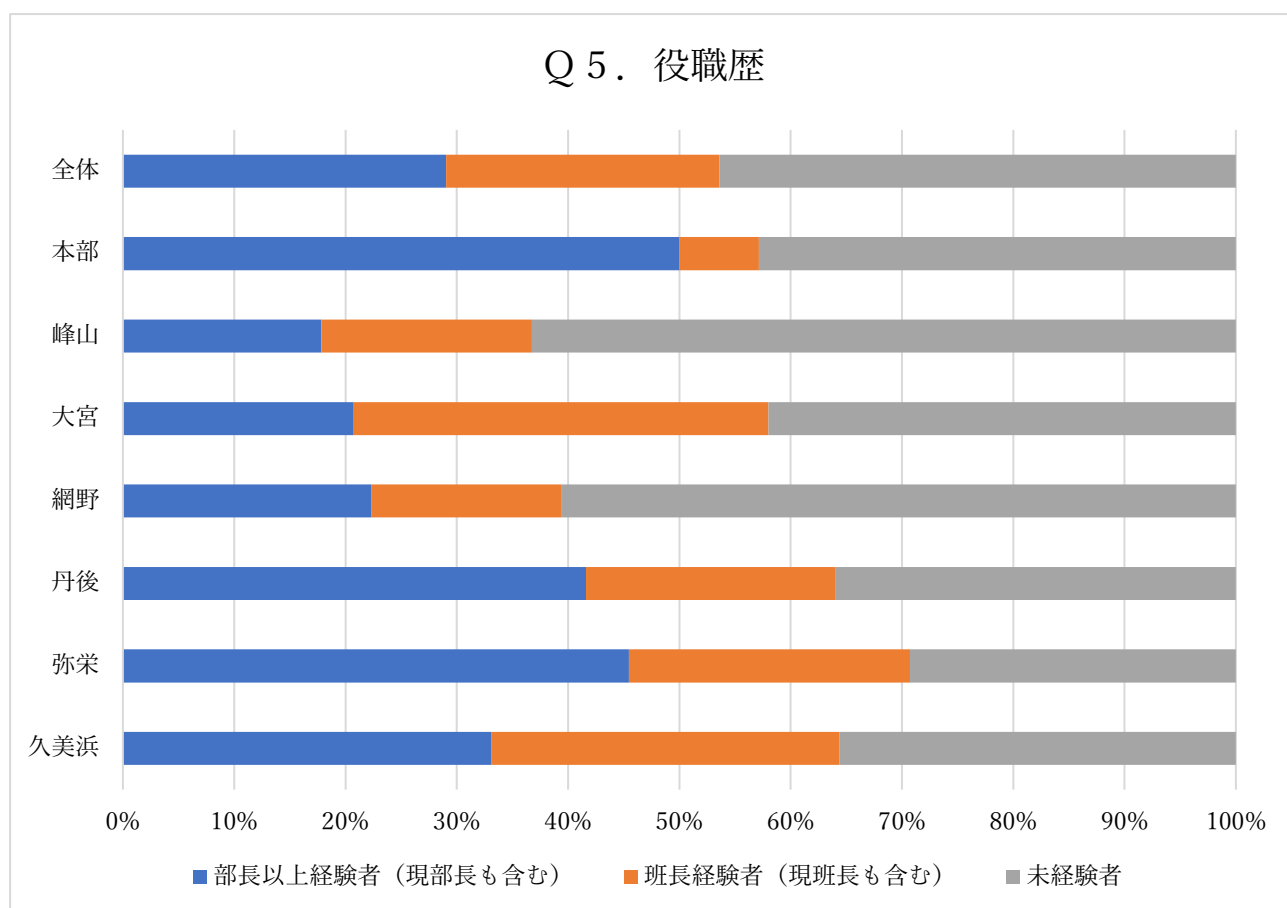


回答者の勤続年数は、10年までが約45.2%、11年～20年が約39.9%、20年以上が14.9%となっており、半数近くは10年まで、20年までの団員が85.1%という状況である。

Q5 あなたの消防団役職歴を教えてください。

職 歴	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
部長以上経験者 (現部長も含む)	278	7	33	31	42	67	45	53
班長経験者 (現班長も含む)	235	1	35	56	32	36	25	50
未経験者	444	6	117	63	114	58	29	57
合 計	957	14	185	150	188	161	99	160

※ 無回答3名(丹後、弥栄、久美浜各1)を除く

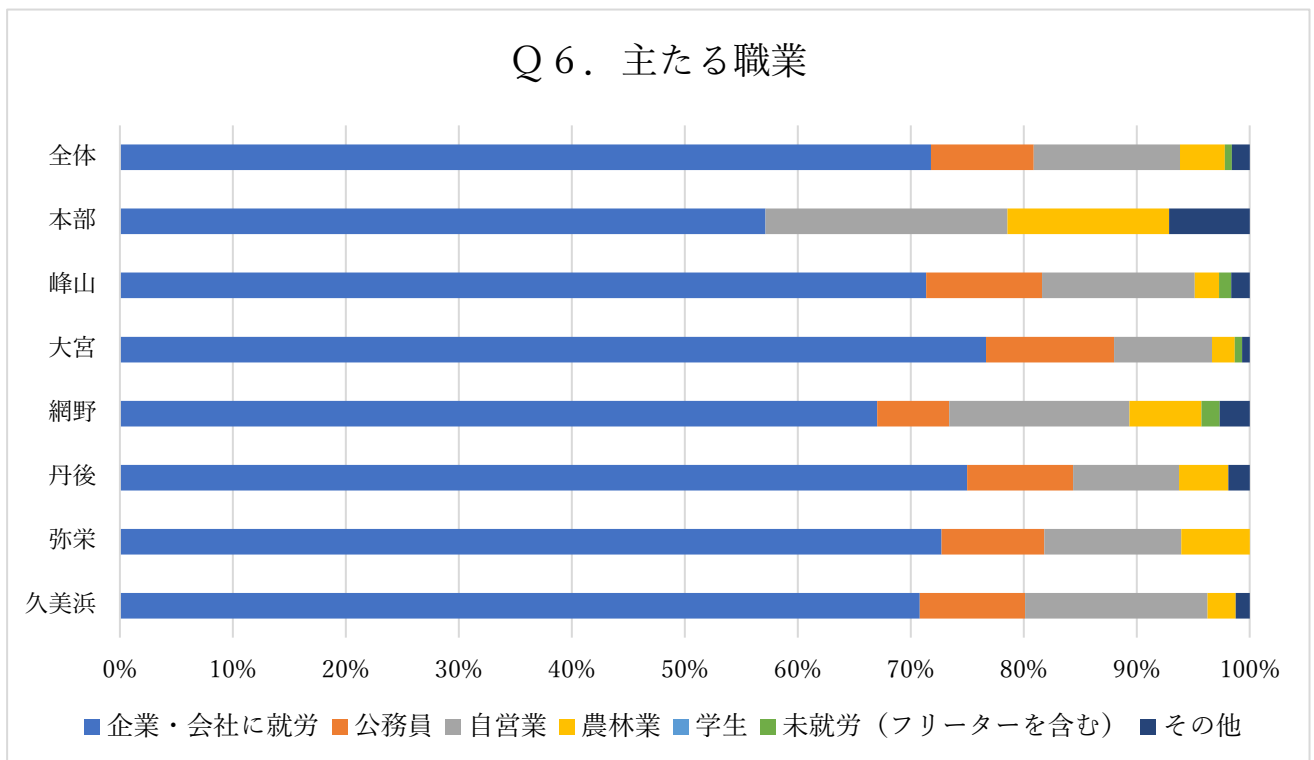


回答者の役職経験状況は、半数近くの約46.6%がいずれも未経験、また、部長以上経験者が29%、班長経験者が24.6%である。

Q6 あなたの主たる職業をお答えください。

職業	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
企業・会社に就労	687	8	132	115	126	120	72	114
公務員	87	0	19	17	12	15	9	15
自営業	124	3	25	13	30	15	12	26
農林業	38	2	4	3	12	7	6	4
学生	0	0	0	0	0	0	0	0
未就労 (フリーターを含む)	6	0	2	1	3	0	0	0
その他	15	1	3	1	5	3	0	2
合計	957	14	185	150	188	160	99	161

※ 無回答3名(丹後2、弥栄1)を除く



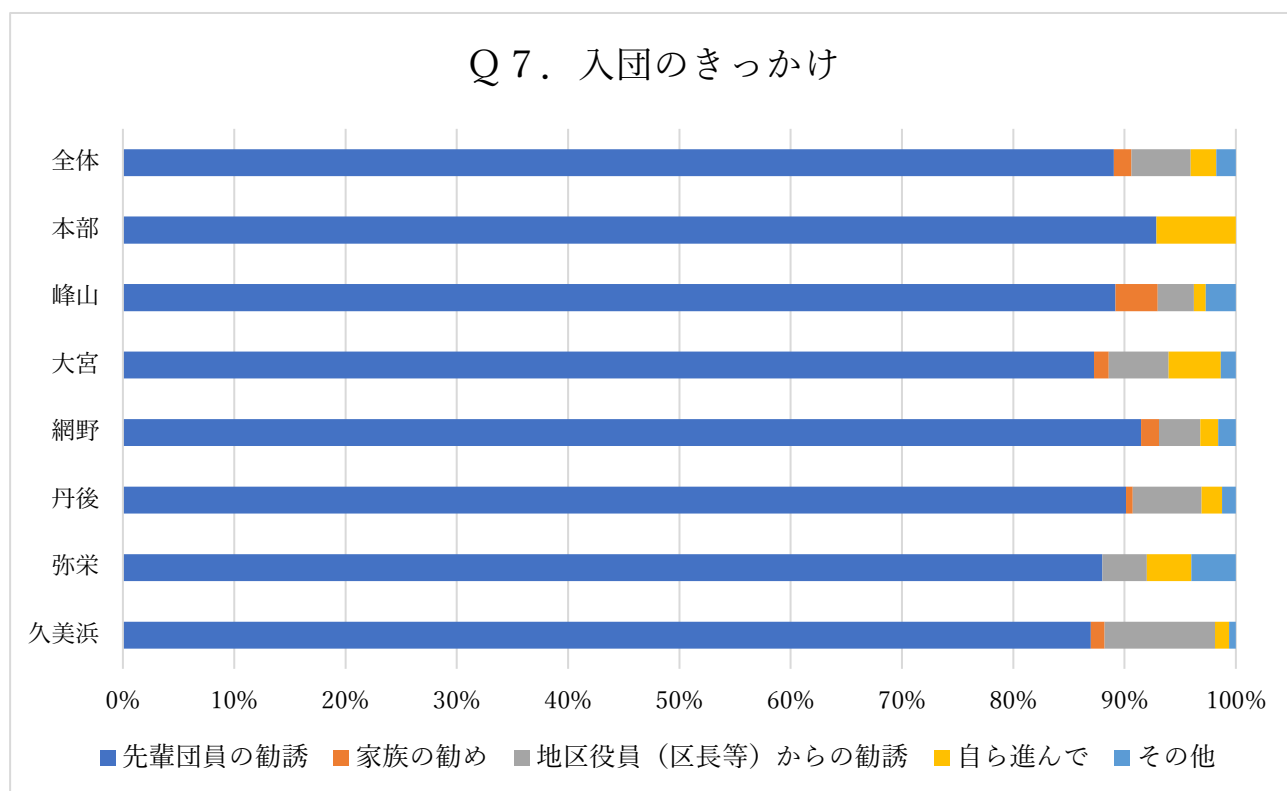
回答者の職業別状況は、企業・会社に就労、公務員等の被雇用者の割合が80.9%、自営業、農林業等が17.0%、学生、未就労、その他が2.6%であった。

全国的な被雇用者率73.9%(令和2年4月1日)に比較して7%ほど高い(多い)状況となっており、消防団活動に対する勤務先企業等の理解、協力は不可欠である。

Q7 あなたが消防団に入団したきっかけを教えてください。

きっかけ	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
先輩団員の勧誘	854	13	165	130	172	146	88	140
家族の勧め	15	0	7	2	3	1	0	2
地区役員(区長等)からの勧誘	51	0	6	8	7	10	4	16
自ら進んで	22	1	2	7	3	3	4	2
その他	17	0	5	2	3	2	4	1
合計	959	14	185	149	188	162	100	161

※ 無回答1名(大宮)を除く

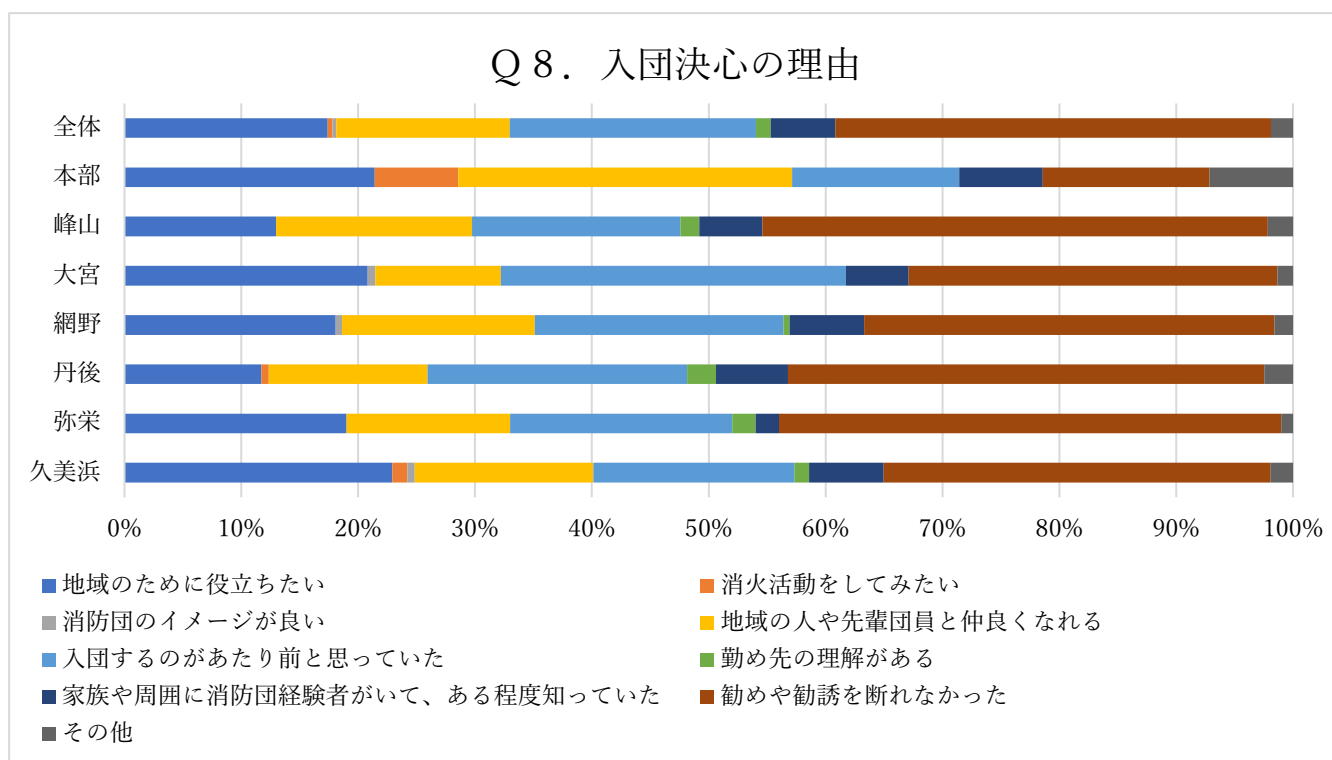


回答者の入団のきっかけの約89%は、「先輩団員の勧誘」であり、これに「家族のすすめ」「地区役員からの勧誘」も合わせると、95.9%となる。また、「自ら進んで」という回答も22(約2.3%)あった。

Q8 あなたが入団を決心した最も大きい理由は何ですか。

きっかけ	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
地域のために役立ちたい	166	3	24	31	34	19	19	36
消火活動をしてみたい	4	1	0	0	0	1	0	2
消防団のイメージが良い	3	0	0	1	1	0	0	1
地域の人や先輩団員と仲良くなれる	142	4	31	16	31	22	14	24
入団するのがあたり前と思っていた	201	2	33	44	40	36	19	27
勤め先の理解がある	12	0	3	0	1	4	2	2
家族や周囲に消防団経験者がいて、ある程度知っていた	53	1	10	8	12	10	2	10
勧めや勧誘を断れなかった	356	2	80	47	66	66	43	52
その他	18	1	4	2	3	4	1	3
合計	955	14	185	149	188	162	100	157

※ 無回答5名(大宮1、久美浜4)を除く



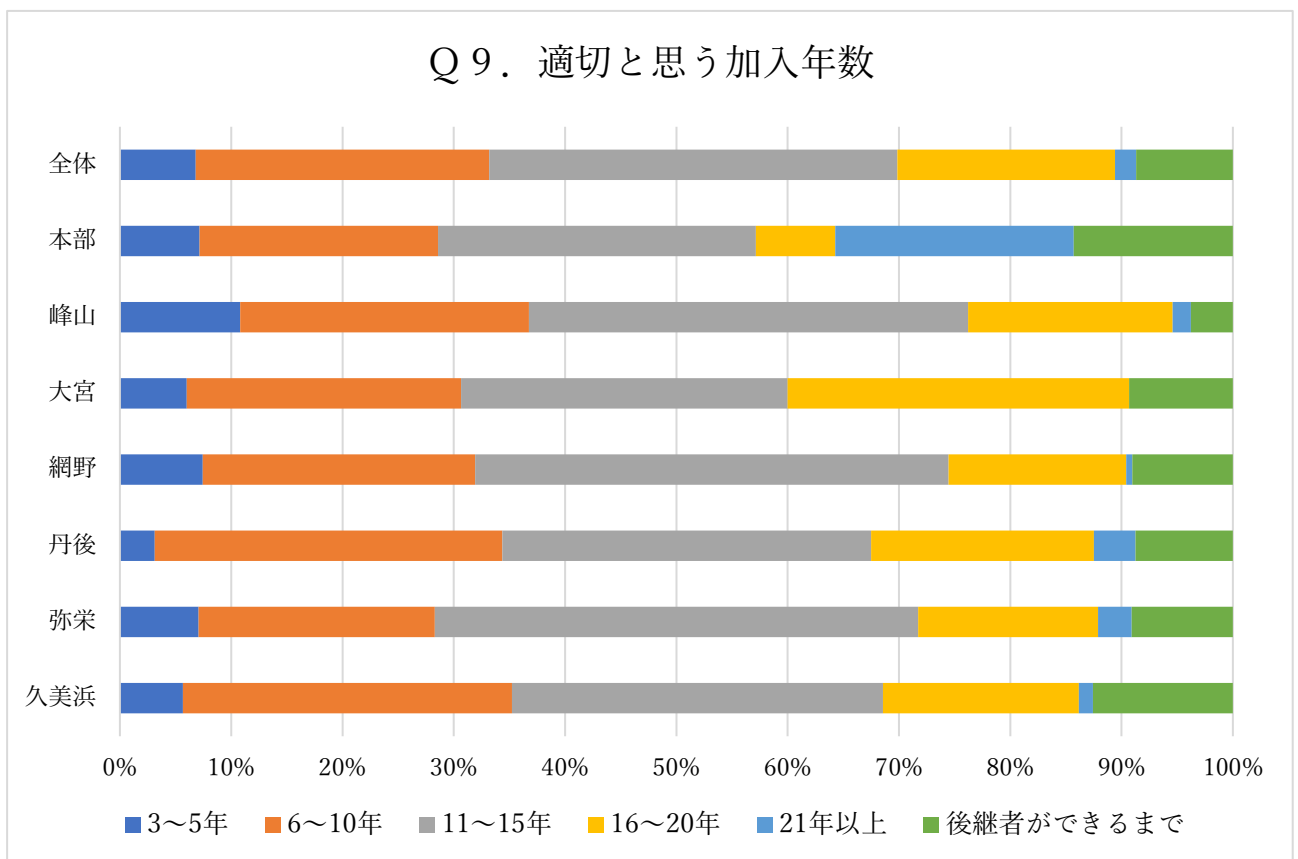
回答者の入団を決心した理由で最も多かったのは、「勧めや勧誘を断れなかった」で、全体の37.3%を占めた。一方、「地域のために役立ちたい」「消火活動をしてみたい」「消防団のイメージが良い」「地域の人や先輩団員と仲良くなれる」といった能動的な回答も33%あった。



Q9 あなたが思う消防団員として適切な加入年数をお答えください。

きっかけ	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
3～5年	65	1	20	9	14	5	7	9
6～10年	252	3	48	37	46	50	21	47
11～15年	350	4	73	44	80	53	43	53
16～20年	187	1	34	46	30	32	16	28
21年以上	18	3	3	0	1	6	3	2
後継者ができるまで	83	2	7	14	17	14	9	20
合計	955	14	185	150	188	160	99	159

※ 無回答5名(丹後2、弥栄1、久美浜2)を除く



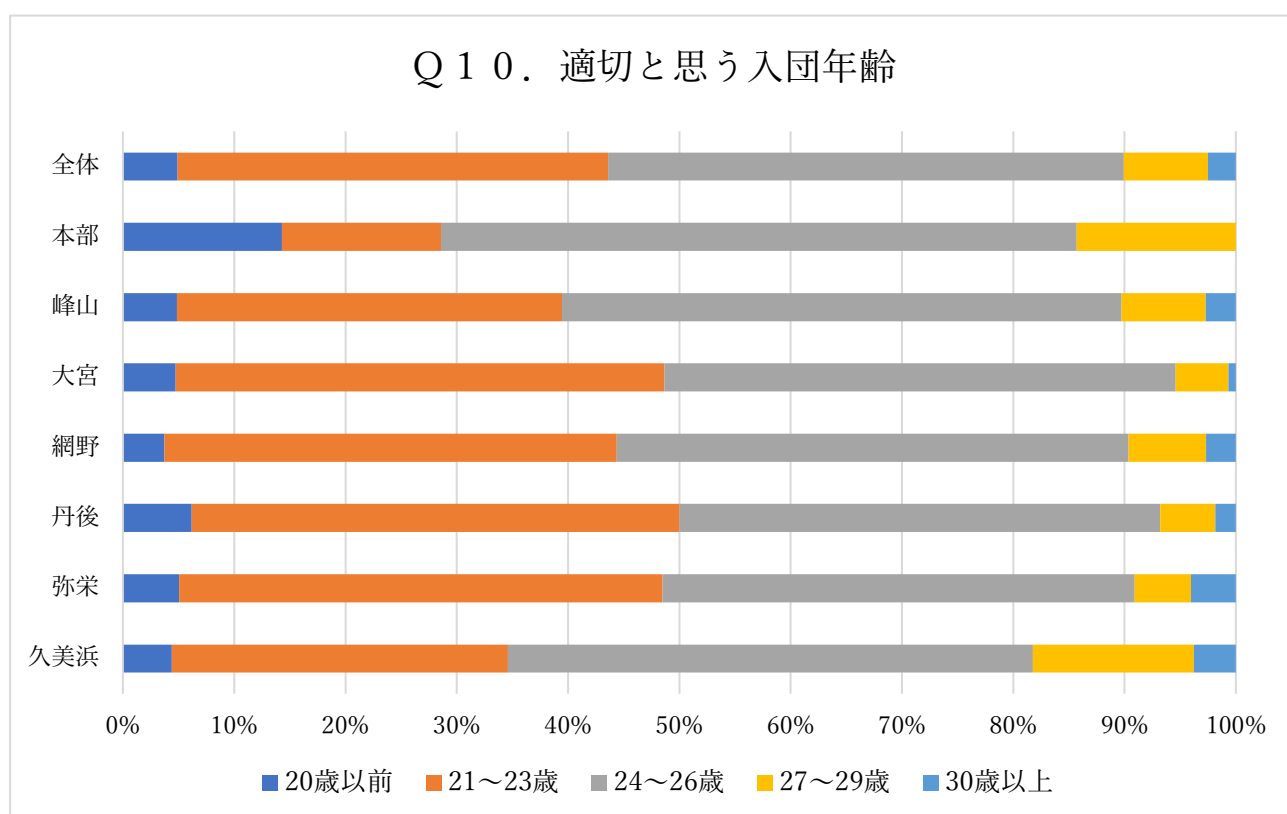
3年～10年との回答が、33.2%、11年～20年との回答が56.2%、「後継者ができるまで」を含めた21年以上が10.6%であった。

加入年数は20年までが適切と考える回答者が、約9割を占めた。

Q10 あなたが思う消防団に入団する適齢をお答えください。

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
20歳以前	47	2	9	7	7	10	5	7
21～23歳	369	2	64	65	76	71	43	48
24～26歳	442	8	93	68	86	70	42	75
27～29歳	72	2	14	7	13	8	5	23
30歳以上	24	0	5	1	5	3	4	6
合計	954	14	185	148	187	162	99	159

※ 無回答6名(大宮2、網野1、弥栄1、久美浜2)を除く



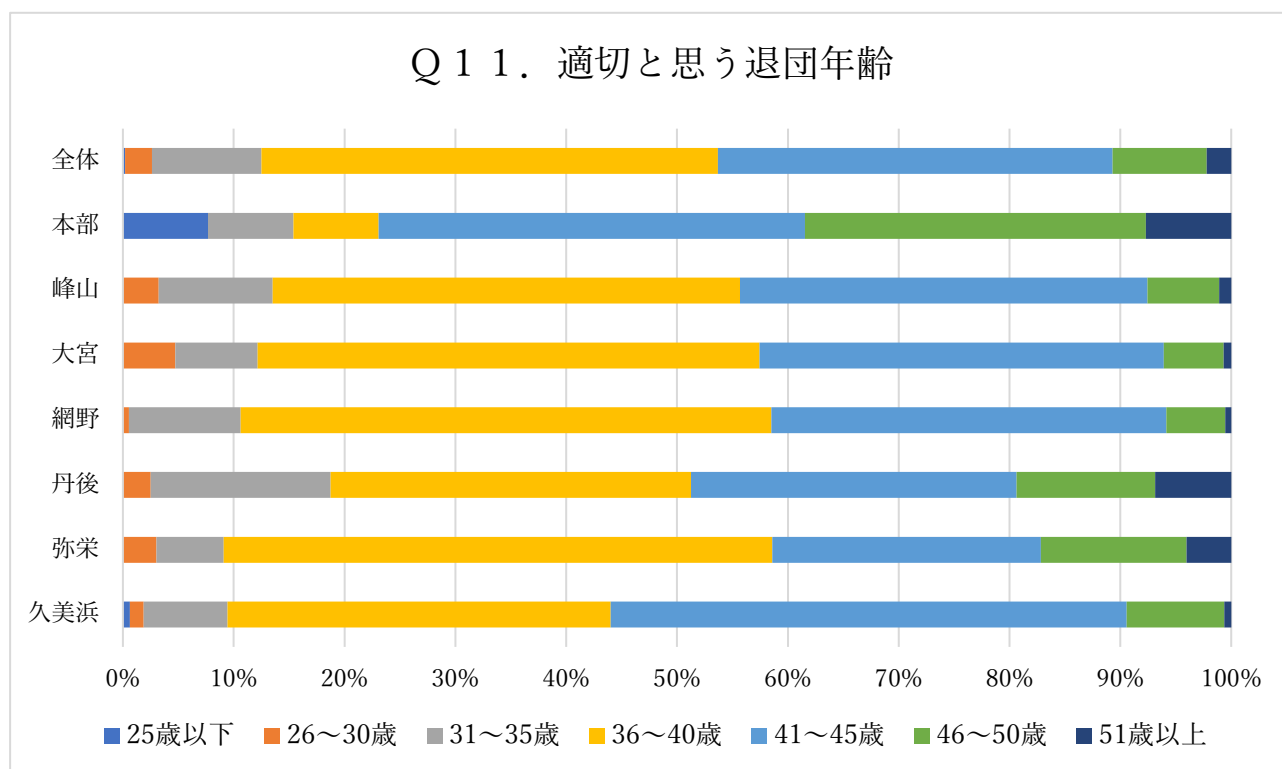
回答者が適切と考える加入年齢で最も多かったのは、「24歳～26歳」(46.3%)で、次いで「21歳～23歳」(38.7%)、「27歳～29歳」(7.5%)、「20歳以前」(4.9%)、「30歳以上」(2.5%)となった。

なお、26歳までと考える回答者は全体の89.9%であり、30歳までと考えるのが全体の97.5%であった。

Q11 あなたが思う消防団を退団する適齢をお答えください。

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
25歳以下	2	1	0	0	0	0	0	1
26～30歳	23	0	6	7	1	4	3	2
31～35歳	94	1	19	11	19	26	6	12
36～40歳	392	1	78	67	90	52	49	55
41～45歳	339	5	68	54	67	47	24	74
46～50歳	81	4	12	8	10	20	13	14
51歳以上	21	1	2	1	1	11	4	1
合計	952	13	185	148	188	160	99	159

※ 無回答8名(本部1、大宮2、丹後2、弥栄1、久美浜2)を除く



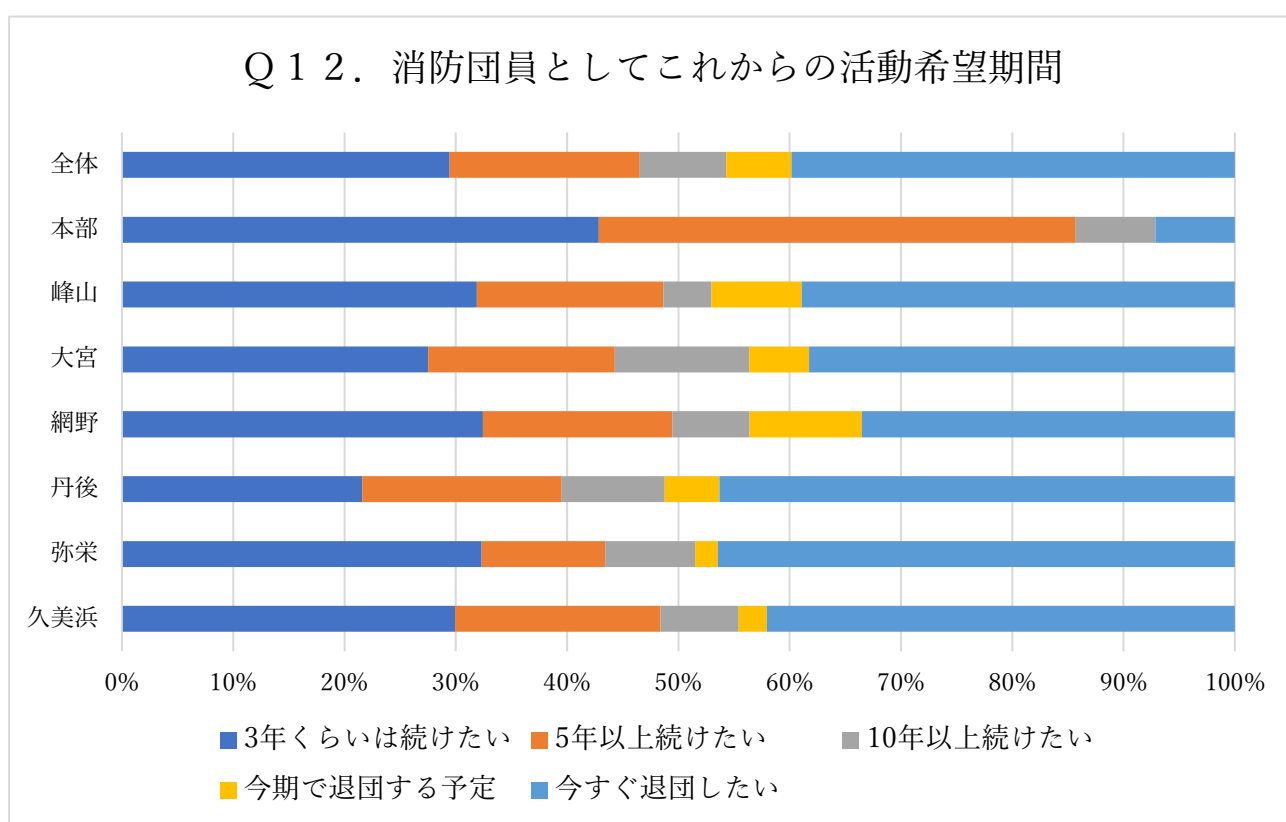
回答者が適切と考える退団年齢で最も多かったのは「36歳～40歳」(41.2%)で、次いで「41歳～45歳」(35.6%)であり、この2項目で全体の76.8%を占める。次いで、「31歳～35歳」(9.9%)、「46歳～50歳」(8.5%)、「26歳～30歳」(2.4%)、「51歳以上」(2.2%)、「25歳以下」(0.2%)となった。

50歳までの退団が適切との回答が、全体の97.8%を占め、うち、45歳までの退団が適切との回答は89.3%であった。

Q12 あなたはこれから何年くらい消防団員として活動したいですか。

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
3年くらいは続けたい	281	6	59	41	61	35	32	47
5年以上続けたい	163	6	31	25	32	29	11	29
10年以上続けたい	74	1	8	18	13	15	8	11
今期で退団する予定	56	0	15	8	19	8	2	4
今すぐ退団したい	380	1	72	57	63	75	46	66
合計	954	14	185	149	188	162	99	157

※ 無回答6名(大宮1、弥栄1、久美浜4)を除く



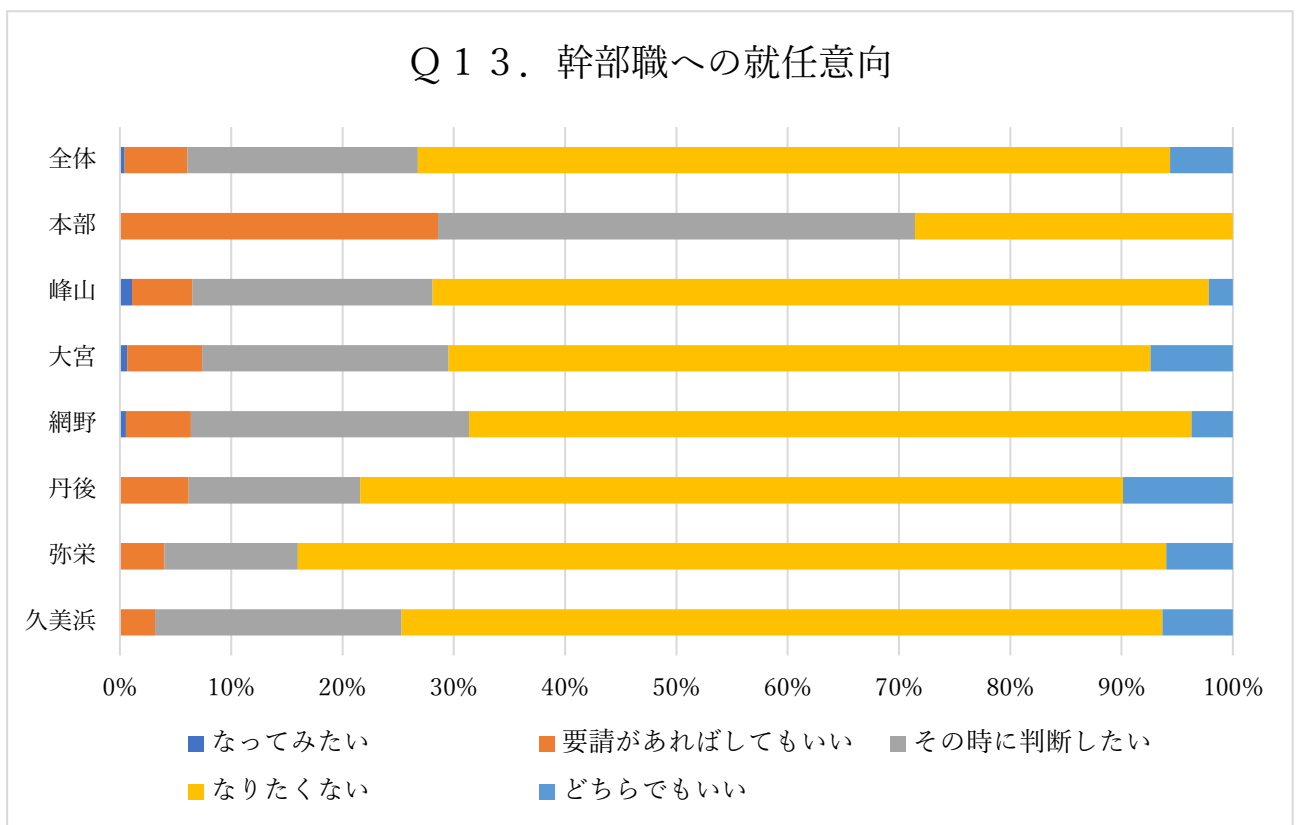
回答で最も多かったのは「今すぐ退団したい」で、39.8%、次いで、「3年くらいは続けたい」が29.5%、「5年以上続けたい」が17.1%、「10年以上続けたい」が7.8%、「今期で退団する予定」が5.9%であった。

3年、5年、10年と期間はまちまちであるが、今後も活動を続けたいとする回答者が54.3%ある一方で、今すぐに退団したいとする回答者39.8%があり、今後の組織、体制維持に向け、その要因の究明と対応策の検討が必要と思われる。

Q13 あなたは将来、幹部団員(部長以上)になりたいですか。

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
なってみたい	4	0	2	1	1	0	0	0
要請があればでもいい	54	4	10	10	11	10	4	5
その時に判断したい	198	6	40	33	47	25	12	35
なりたくない	646	4	129	94	122	111	78	108
どちらでもいい	54	0	4	11	7	16	6	10
合計	956	14	185	149	188	162	100	158

※ 無回答4名(大宮1、久美浜3)を除く



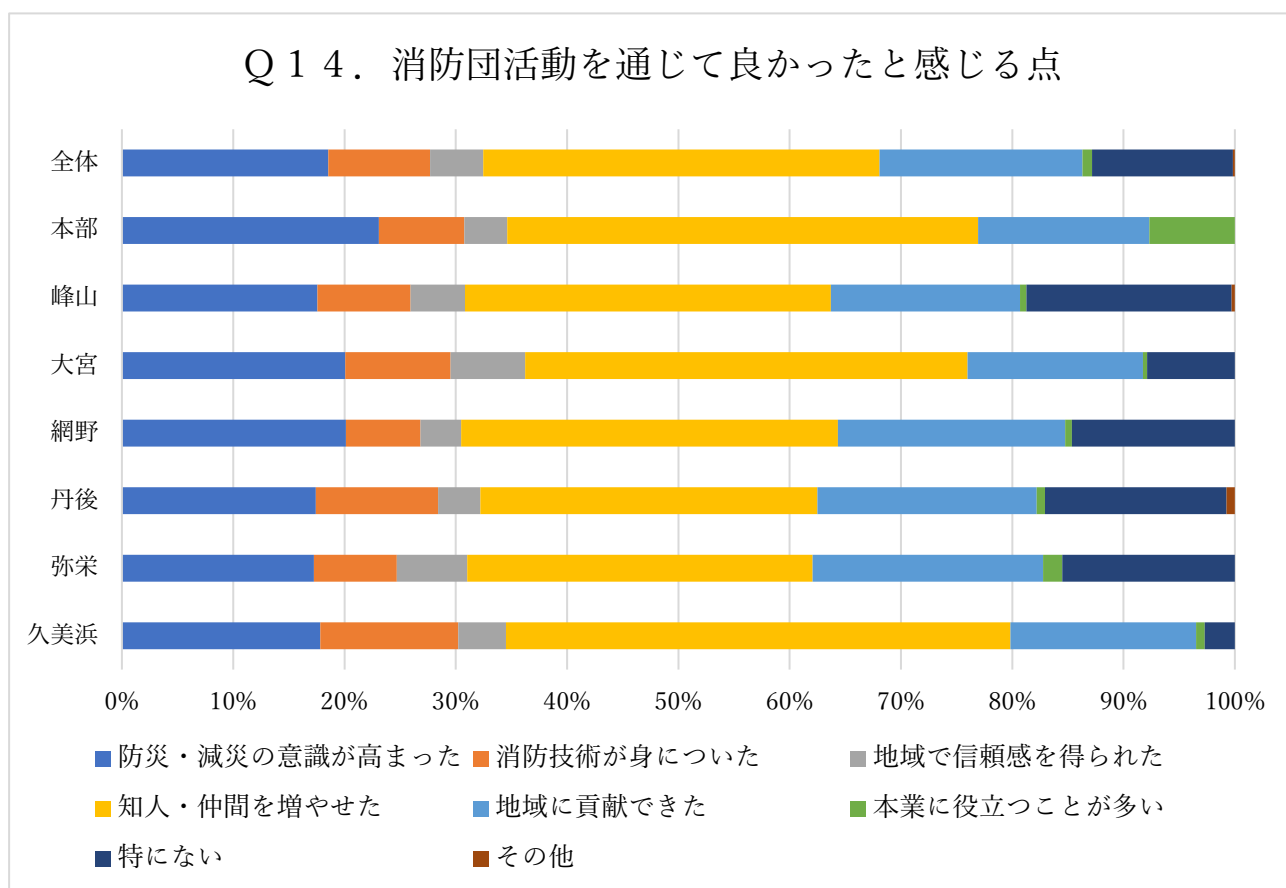
Q5において、回答者のうち役職未経験者が約46%であった、ことが前提とはなるが、「なりたくない」とする回答が最も多く、全体の67.6%となっている。

一方で、「なってみたい」「要請があればでもいい」とした回答者が、6.1%で、これに「その時に判断したい」とする回答者を加えると、26.8%となり、約4人に1人以上は、幹部団員となる(受ける)可能性がある。

Q14 あなたが消防団活動を通じて良かったと感じることは何ですか(2つまで)

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
防災・減災の意識が高まった	306	6	61	51	66	46	30	46
消防技術が身についた	151	2	29	24	22	29	13	32
地域で信頼感を得られた	79	1	17	17	12	10	11	11
知人・仲間を増やせた	588	11	114	101	111	80	54	117
地域に貢献できた	301	4	59	40	67	52	36	43
本業に役立つことが多い	14	2	2	1	2	2	3	2
特にない	209	0	64	20	48	43	27	7
その他	3	0	1	0	0	2	0	0
合計	1,651	26	347	254	328	264	174	258

※ 無回答28名(大宮2、網野6、丹後7、弥栄1、久美浜12)を除く

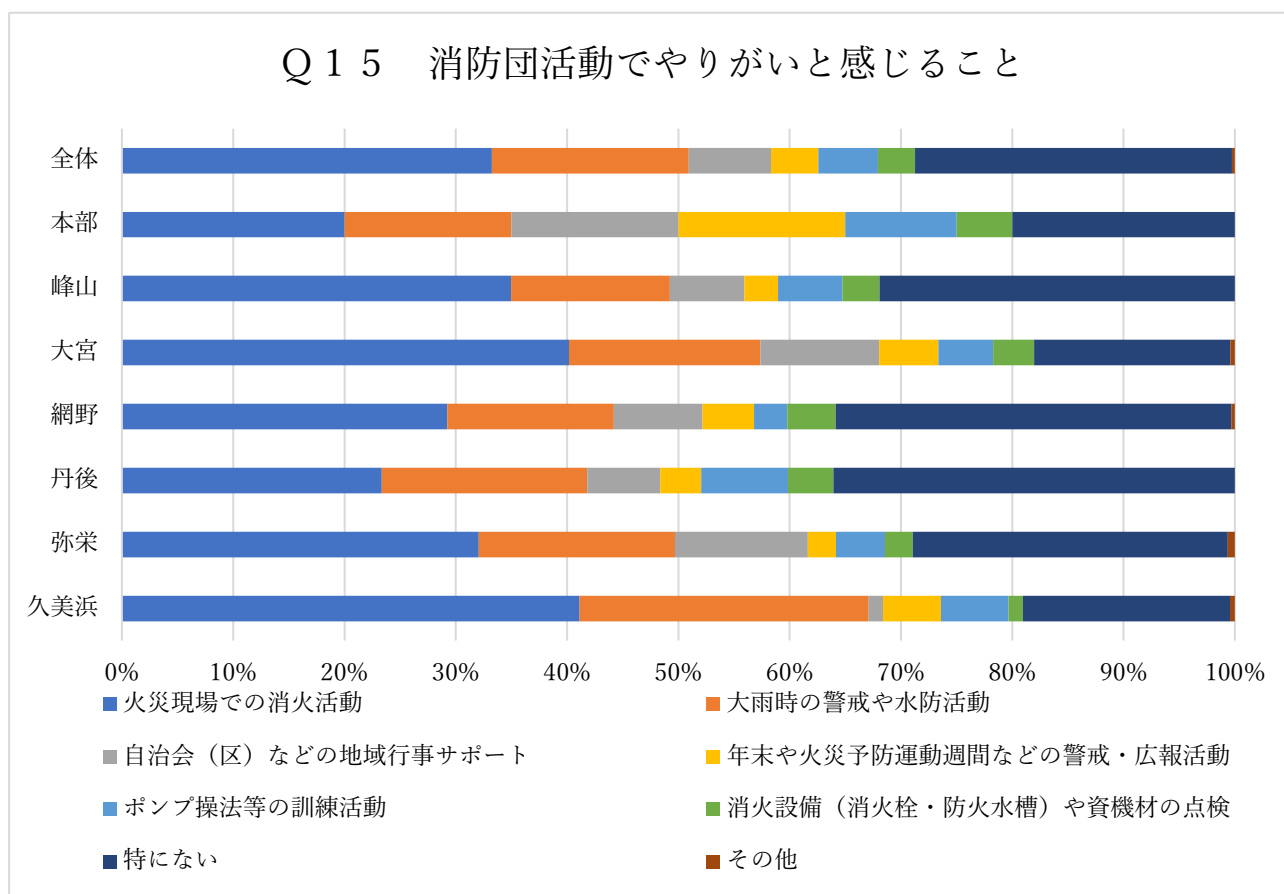


回答中で最も多かったのは、「知人・仲間を増やせた」(35.6%)、次いで「防災・減災の意識が高まった」(18.5%)「地域の貢献できた」(18.2%)であり、この3項目で、全体の72.4%を占めている。その他、「特にない」という回答も12.7%であったが、消防団活動を通じて、人とのつながりや地域への貢献、防災・減災の意識の高まりといった回答が多い。

Q15 あなたが消防団活動でやりがいを感じることは何ですか(2つまで)

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
火災現場での消火活動	508	4	115	98	88	57	51	95
大雨時の警戒や水防活動	270	3	47	42	45	45	28	60
自治会(区)などの地域行事サポート	113	3	22	26	24	16	19	3
年末や火災予防運動週間などの警戒・広報活動	65	3	10	13	14	9	4	12
ポンプ操法等の訓練活動	82	2	19	12	9	19	7	14
消火設備(消火栓・防火水槽)や資機材の点検	51	1	11	9	13	10	4	3
特にない	435	4	105	43	107	88	45	43
その他	4	0	0	1	1	0	1	1
合計	1,528	20	329	244	301	244	159	231

※ 無回答61名(本部2、大宮7、網野9、丹後11、弥栄6、久美浜26)を除く



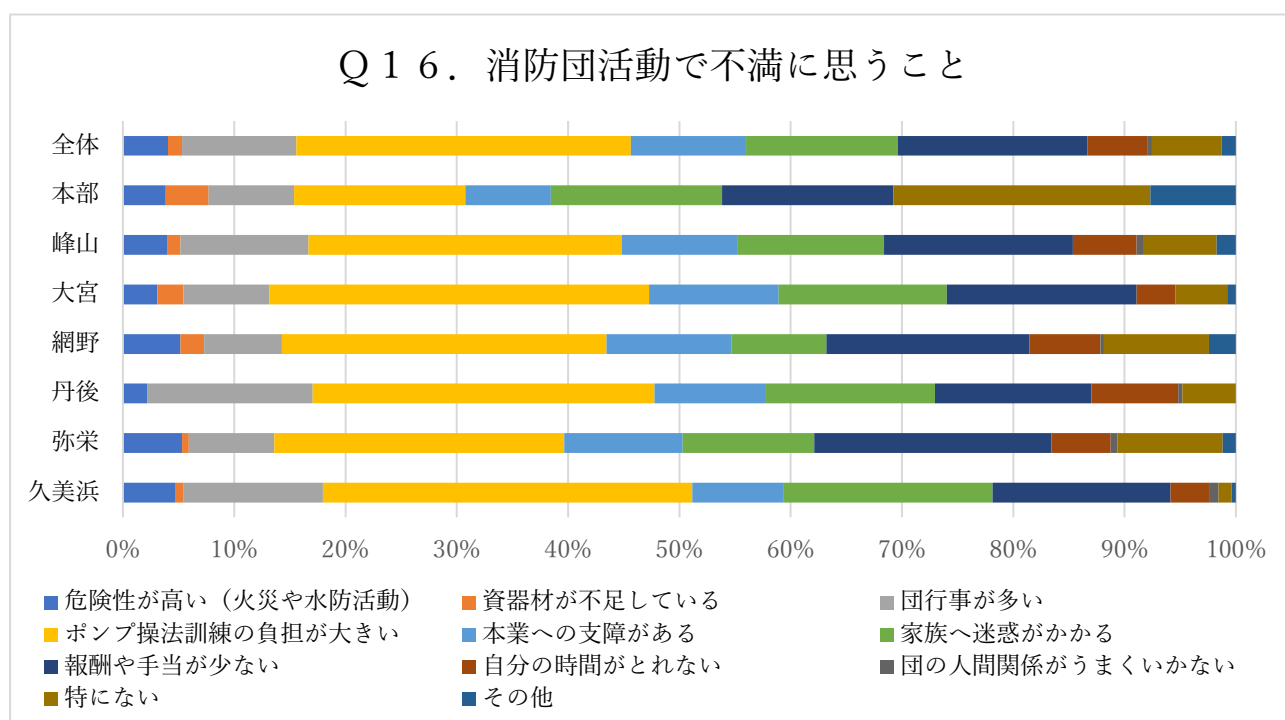
活動の中でやりがいを感じることは、やはり「火災現場での消火活動」が最も多く、全体の約3分の1(33.2%)を占めた。続いて、「大雨時の警戒や水防活動」が17.7%であった。

なお、「特にない」とする回答も多く、全体の28.5%となっている。

Q16 あなたが消防団活動で不満に思うことは何ですか(2つまで)

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
危険性が高い(火災や水防活動)	67	1	14	8	17	6	9	12
資器材が不足している	21	1	4	6	7	0	1	2
団行事が多い	170	2	40	20	23	40	13	32
ポンプ操法訓練の負担が大きい	498	4	98	88	96	83	44	85
本業への支障がある	171	2	36	30	37	27	18	21
家族へ迷惑がかかる	226	4	46	39	28	41	20	48
報酬や手当が少ない	282	4	59	44	60	38	36	41
自分の時間がとれない	89	0	20	9	21	21	9	9
団の人間関係がうまくいかない	7	0	2	0	1	1	1	2
特にない	104	6	23	12	31	13	16	3
その他	21	2	6	2	8	0	2	1
合計	1,656	26	348	258	329	270	169	256

※ 無回答42名(大宮6、網野3、丹後9、弥栄4、久美浜20)を除く



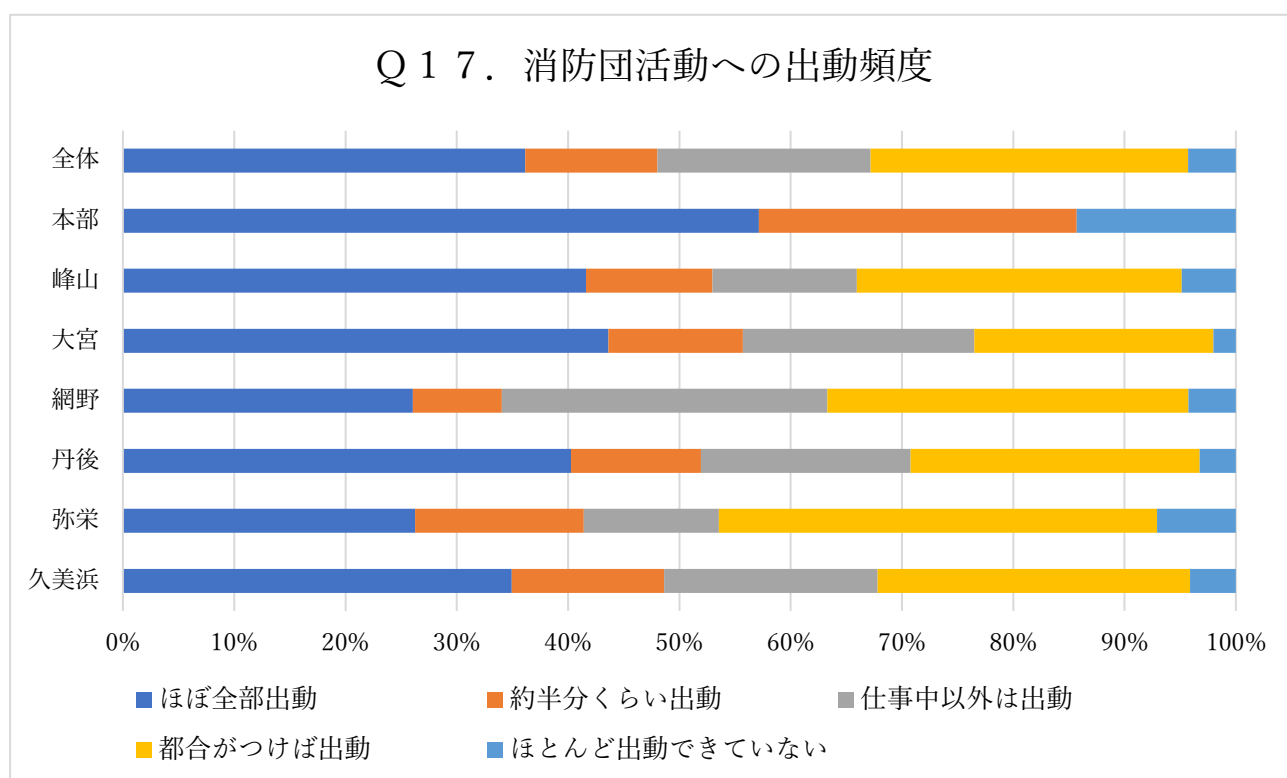
活動の中で最も不満に思うことは「ポンプ操法訓練の負担が大きい」ことで、これが全体の30.1%を占めている。続いて、「報酬や手当が少ない」(17.0%)、「家族へ迷惑がかかる」(13.6%)となっており、その他「本業への支障がある」(10.3%)、「団行事が多い」(10.3%)、「自分の時間が取れない」(5.4%)といった回答が多い。



Q17 あなたはどれくらい消防団活動に出動していますか

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
ほぼ全部出動	338	8	77	65	49	62	26	51
約半分くらい出動	111	4	21	18	15	18	15	20
仕事中外は出動	179	0	24	31	55	29	12	28
都合がつけば出動	267	0	54	32	61	40	39	41
ほとんど出動できていない	40	2	9	3	8	5	7	6
合計	935	14	185	149	188	154	99	146

※ 無回答25名(大宮1、丹後8、弥栄1、久美浜15)を除く



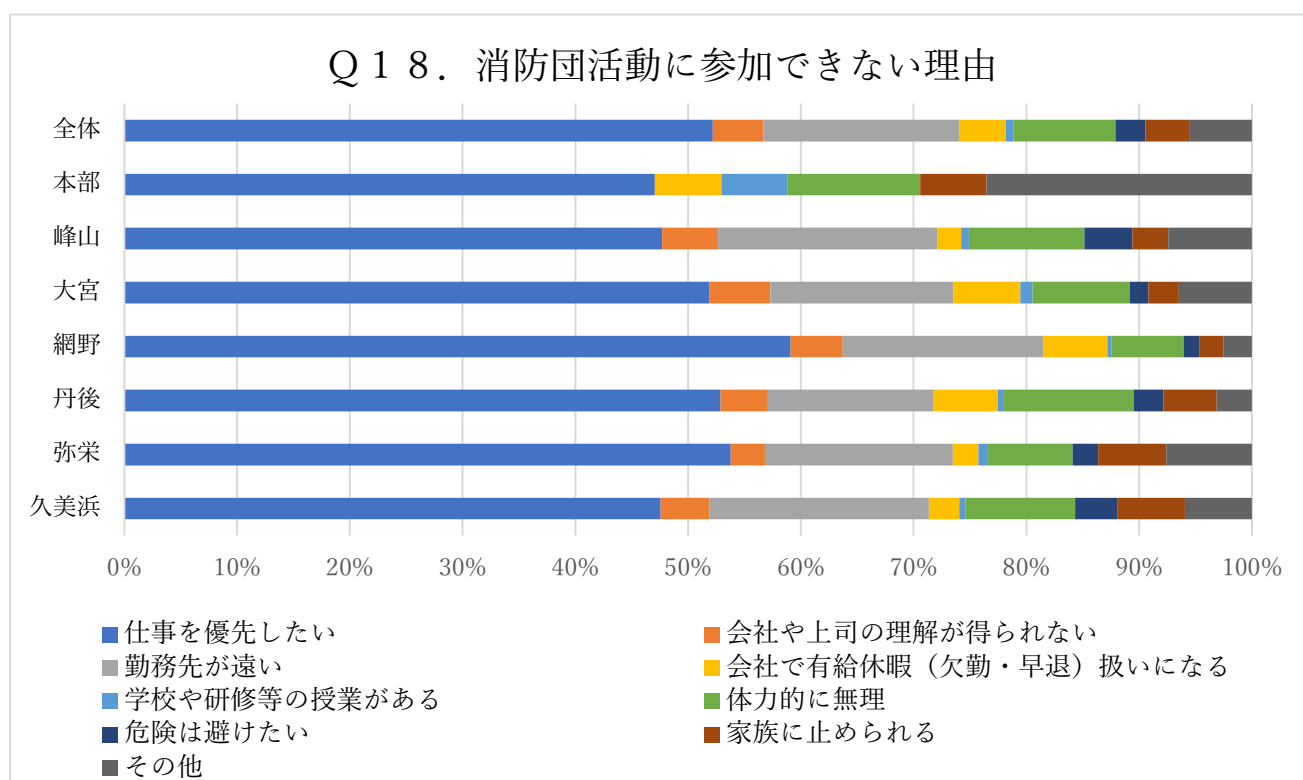
最も多いのが「ほぼ全部出動」(36.1%)、次いで、「都合がつけば出動」(28.6%)、「仕事中外は出動」(19.1%)、「約半分くらい出動」(11.9%)となった。また、「ほとんど出動できていない」とする回答も4.3%あった。

Q18 あなたが消防団活動に出動できない理由は何ですか(2つまで)

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
仕事を優先したい	665	8	135	96	166	101	71	88
会社や上司の理解が得られない	57	0	14	10	13	8	4	8
勤務先が遠い	221	0	55	30	50	28	22	36
会社で有給休暇(欠勤・早退)扱いになる	53	1	6	11	16	11	3	5
学校や研修等の授業がある	9	1	2	2	1	1	1	1
体力的に無理	115	2	29	16	18	22	10	18
危険は避けたい	34	0	12	3	4	5	3	7
家族に止められる	49	1	9	5	6	9	8	11
その他	71	4	21	12	7	6	10	11
合計	1,274	17	283	185	281	191	132	185

※ 無回答87名(本部1、峰山2、大宮21、網野1、丹後24、弥栄8、久美浜30)を除く

※ 無回答には、Q17で「ほぼ全部出動」と回答したのものも含んだ数値

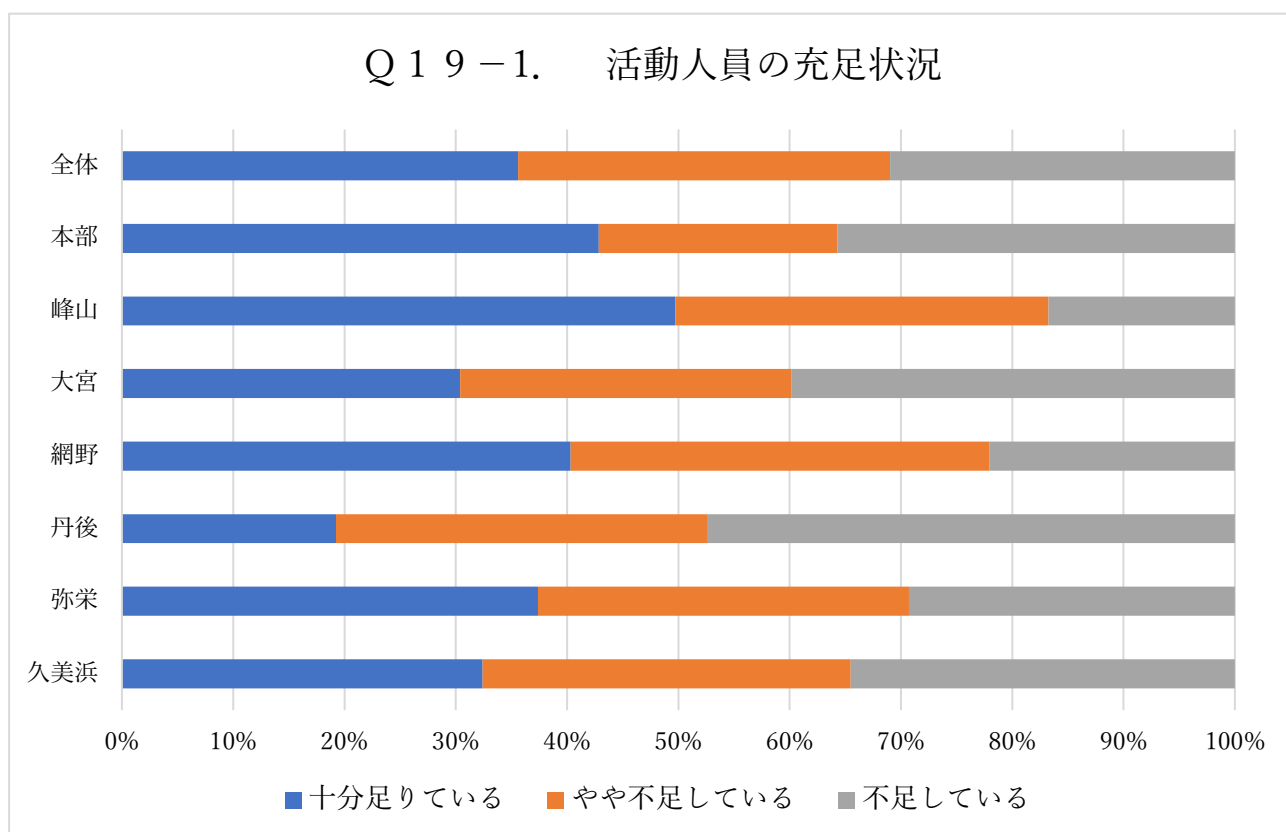


出動できない理由の中で最も多いのは、「仕事を優先したい」(52.2%)であり、これに「会社や上司の理解が得られない」(4.5%)、「会社で有給休暇(欠勤・早退)扱いになる」(4.2%)を加えると、60.8%となり、消防団活動に対する、さらなる企業等への理解、協力を求めることが、消防団活動促進の方法の一つであると思われる。

Q19-1 あなたが所属している部内の人員は消防活動を行ううえで足りていますか

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
十分足りている	331	6	92	45	75	30	37	46
やや不足している	311	3	62	44	70	52	33	47
不足している	288	5	31	59	41	74	29	49
合計	930	14	185	148	186	156	99	142

※ 無回答30名(大宮2、網野2、丹後6、弥栄1、久美浜19)を除く



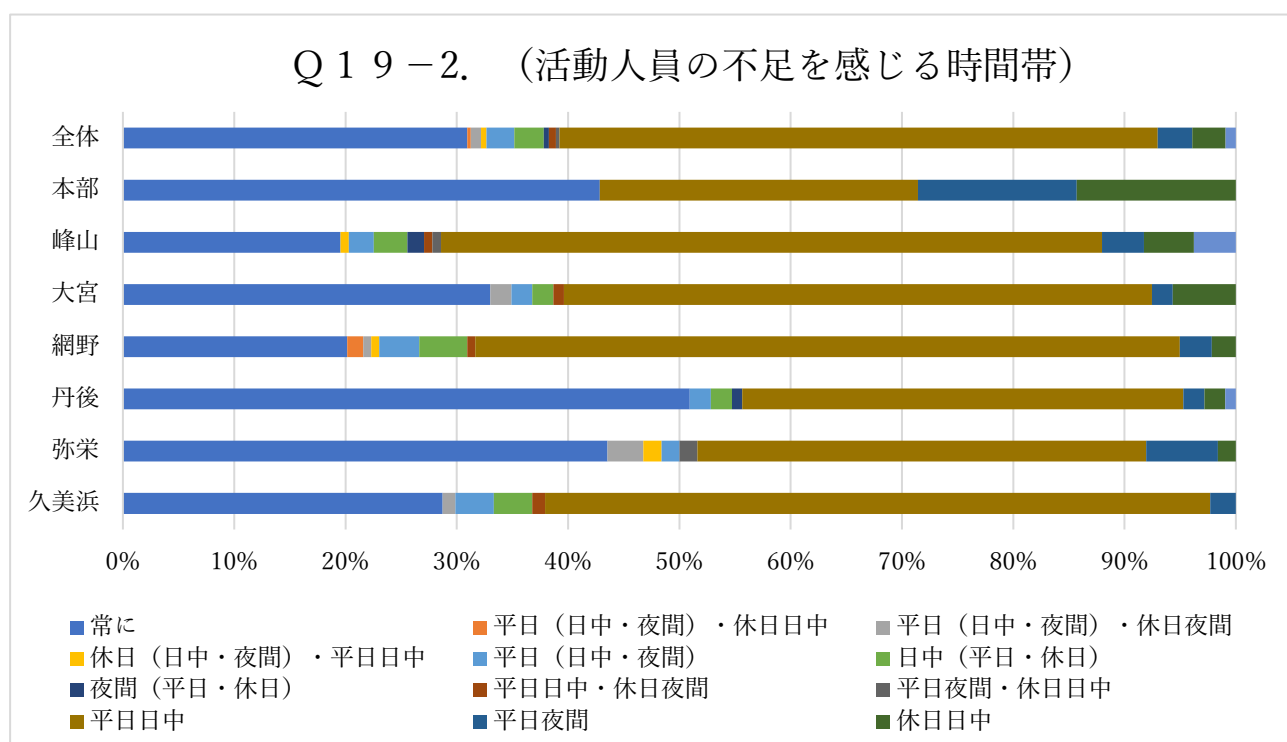
「十分足りている」(35.6%)、「やや不足している」(33.4%)、「不足している」(31.0%)という回答結果となり、やや不足、あるいは、不足と感じている回答が全体の64.4%を占めた。

### Q19-2 活動人員の不足を感じる時間帯

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
常に	198	3	26	35	28	54	27	25
平日(日中・夜間) 休日日中	2	0	0	0	2	0	0	0
平日(日中・夜間) 休日夜間	6	0	0	2	1	0	2	1
休日(日中・夜間) 平日日中	3	0	1	0	1	0	1	0
平日 (日中・夜間)	16	0	3	2	5	2	1	3
日中 (平日・休日)	17	0	4	2	6	2	0	3
夜間 (平日・休日)	3	0	2	0	0	1	0	0
平日日中 休日夜間	4	0	1	1	1	0	0	1
平日夜間 休日日中	2	0	1	0	0	0	1	0
平日日中	344	2	79	56	88	42	25	52
平日夜間	20	1	5	2	4	2	4	2
休日日中	19	1	6	6	3	2	1	0
休日夜間	6	0	5	0	0	1	0	0
合計	640	7	133	106	139	106	62	87

※ 無回答320名(本部7、峰山52、大宮44、網野49、丹後56、弥栄38、久美浜74)を除く

※ 無回答には、Q19(上記)で「十分足りている」と回答したのものも含んだ数

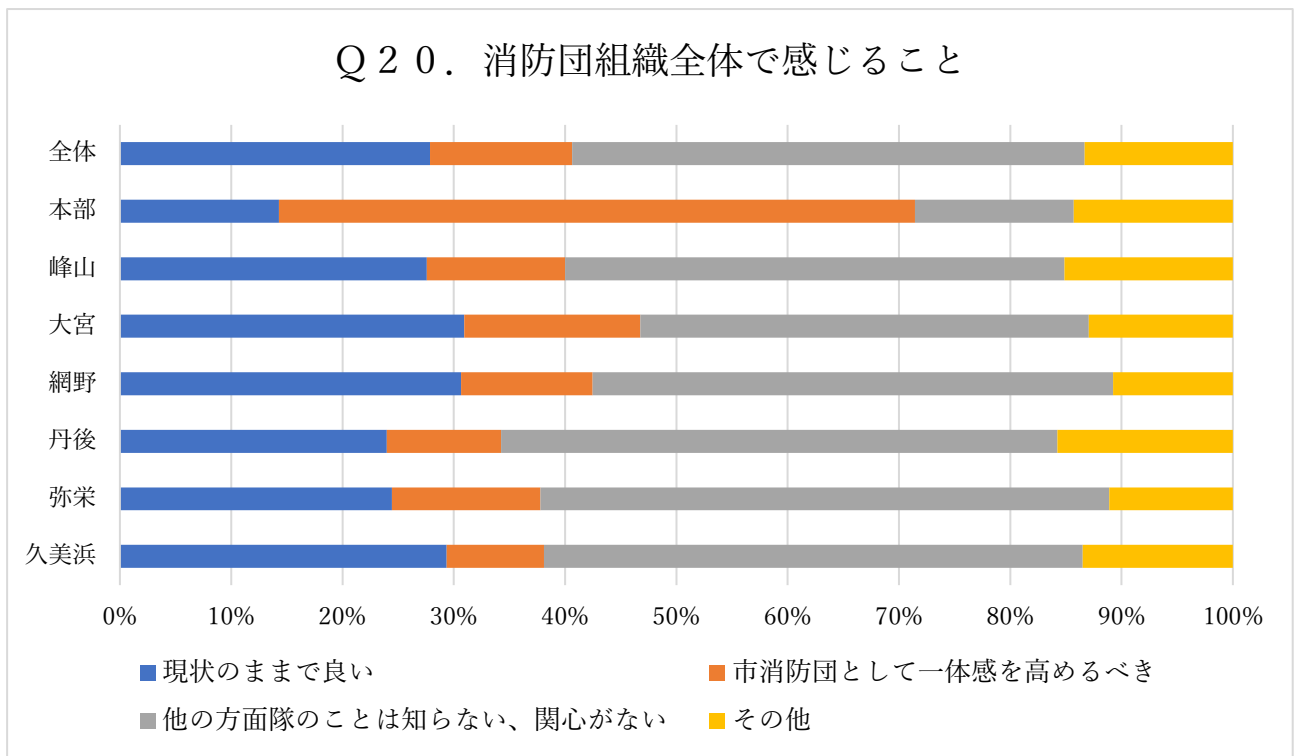


不足を感じる時間帯で最も多いのは、「平日日中」(53.8%)とする一方で、「常に」という回答も多かった(30.9%)。

Q20 京丹後市消防団の組織全体であなたが感じることは何ですか

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
現状のままで良い	247	2	51	43	57	35	22	37
市消防団として一体感を高めるべき	113	8	23	22	22	15	12	11
他の方面隊のことは知らない、関心がない	408	2	83	56	87	73	46	61
その他	118	2	28	18	20	23	10	17
合計	886	14	185	139	186	146	90	126

※ 無回答74名(大宮11、網野2、丹後16、弥栄10、久美浜35)を除く



回答の中で最も多いのは「他の方面隊のことは知らない、関心がない」(46.0%)、次いで「現状のままで良い」(27.9%)、「市消防団として一体感を高めるべき」(12.8%)、「その他」(13.3%)となった。

合併前の旧町単位での組織構成に特段の問題意識はなく、また、他方面隊(町)への関心も薄いことが表れている。

一方では、「その他」に分類された意見も多く、操法のこと、団員の高齢化、活動、組織に関すること、負担感、報酬と広範囲にわたり様々な問題意識を持つ団員が多い。

Q21 あなたはこれまで新入団員の勧誘をしたことがありますか

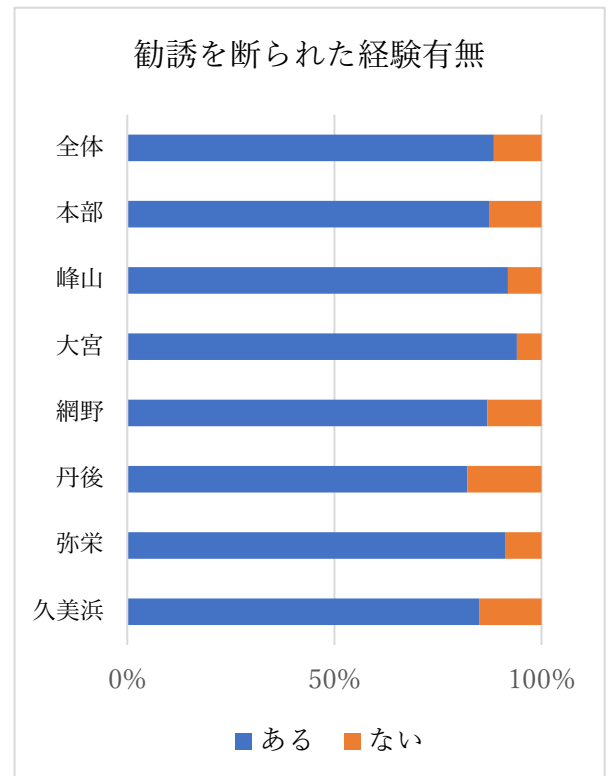
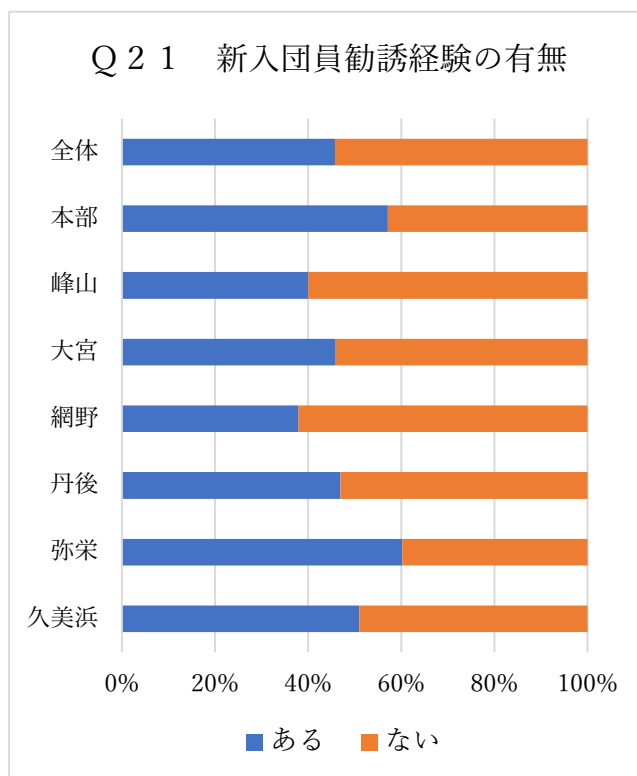
項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
ある	423	8	74	67	71	70	59	74
ない	501	6	111	79	116	79	39	71
合計	924	14	185	146	187	149	98	145

※ 無回答36名(大宮4、網野1、丹後13、弥栄2、久美浜16)を除く

●[ある]の回答中、入団を拒まれたことがありますか

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
ある	368	7	68	63	60	55	53	62
ない	48	1	6	4	9	12	5	11
合計	416	8	74	67	69	67	58	73

※ 無回答7名(網野2、丹後3、弥栄1、久美浜1)を除く



勧誘の経験については、「ある」(45.8%)、「ない」(54.2%)と、「ない」とする回答が少し多いものの、ほぼ半々となる状況であった。

勧誘経験のある団員では、入団を拒まれた経験が「ある」との回答が、88.5%を占め、勧誘活動の中で拒まれるケースが非常に多いという回答結果となった。

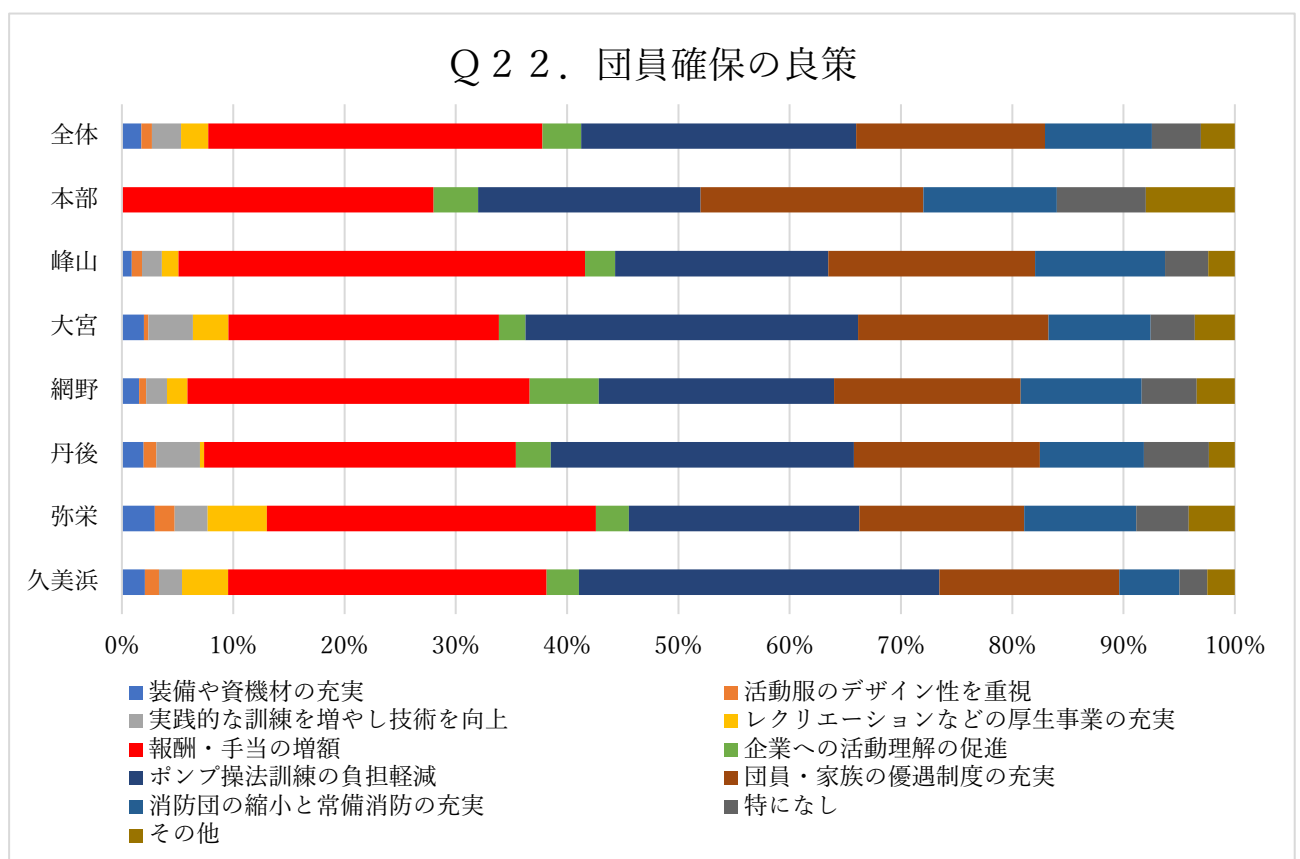
(断られた主な理由)

○操法関連 ○仕事関連 ○家族等の理解 ○消防団のイメージ 等

Q22 消防団員数が全国的に減少傾向にある中で、新入団員を確保するためにあなたが良策と思われるのは何ですか(2つまで)

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
装備や資機材の充実	28	0	3	5	5	5	5	5
活動服のデザイン性を重視	15	0	3	1	2	3	3	3
実践的な訓練を増やし技術を向上	42	0	6	10	6	10	5	5
レクリエーションなどの厚生事業の充実	39	0	5	8	6	1	9	10
報酬・手当の増額	480	7	122	61	99	72	50	69
企業への活動理解の促進	56	1	9	6	20	8	5	7
ポンプ操法訓練の負担軽減	395	5	64	75	68	70	35	78
団員・家族の優遇制度の充実	271	5	62	43	54	43	25	39
消防団の縮小と常備消防の充実	154	3	39	23	35	24	17	13
特になし	70	2	13	10	16	15	8	6
その他	49	2	8	9	11	6	7	6
合計	1,599	25	334	251	322	257	169	241

※ 2項目とも無回答49名(大宮9、網野3、丹後10、弥栄3、久美浜24)を除く



団員自身が考える消防団員確保のための方策としては、「報酬・手当の増額」との回答が、最も多く全体の30.0%を占めた。続いて、「ポンプ操法訓練の負担軽減」(24.7%)、「団員・家族の優遇制度の充実」(16.9%)、「消防団の縮小と常備消防の充実」(9.6%)となり、この4項目で全体の81.3%を占めた。

Q16「消防団活動の不满な点」、Q20「組織に対しての思い(その他意見)」でも出てきたとおり、やはり、ポンプ操法訓練に大きな負担を感じる回答者が多い。

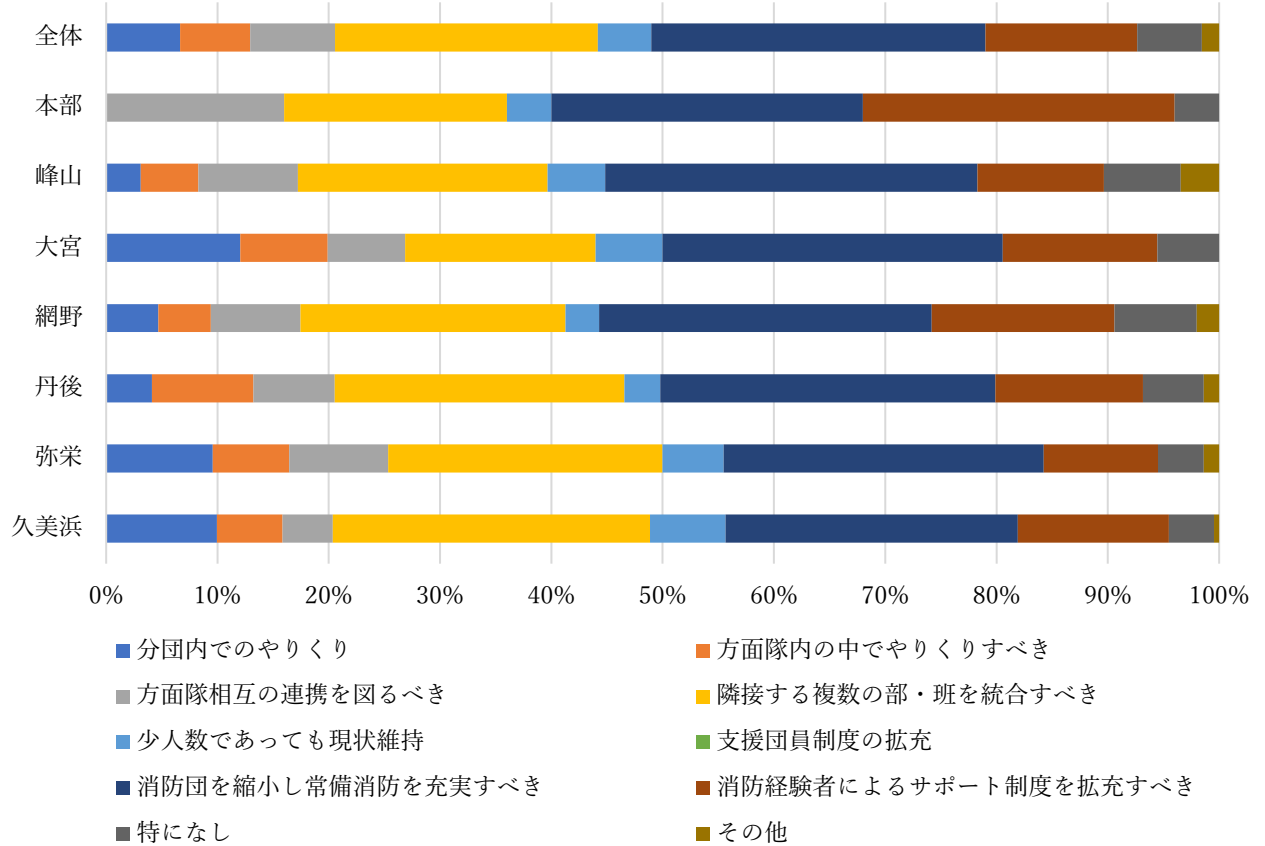
Q23 将来、少子化などにより思うように団員確保ができなくなった場合、あなたは、消防団をどうすべきだと考えますか

項目	全体	本部	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜
分団内でのやりくり	94	0	9	26	14	9	14	22
方面隊内の中でやりくりすべき	89	0	15	17	14	20	10	13
方面隊相互の連携を図るべき	108	4	26	15	24	16	13	10
隣接する複数の部・班を統合すべき	334	5	65	37	71	57	36	63
少人数であっても現状維持	68	1	15	13	9	7	8	15
支援団員制度の拡充	0	0	0	0	0	0	0	0
消防団を縮小し常備消防を充実すべき	425	7	97	66	89	66	42	58
消防経験者によるサポート制度を拡充すべき	193	7	33	30	49	29	15	30
特になし	82	1	20	12	22	12	6	9
その他	22	0	10	0	6	3	2	1
合計	1,415	25	290	216	298	219	146	221

※ 2項目とも無回答66名(大宮11、網野4、丹後17、弥栄8、久美浜26)を除く



### Q23 将来に向けての団員確保方策



さらに、将来に向けての団員確保方策としては、「消防団を縮小し常備消防を充実すべき」(30.0%)が最も多く、次いで「隣接する複数の部・班を統合すべき」(23.6%)、「消防経験者によるサポート制度を拡充すべき」(13.6%)といった回答が多かった。

◆その他、自由記載等(要約)

Q16 あなたが消防団活動で不満に思うことは何ですか
【操法、訓練関連】 3件 ・操法が競技制を重視して教育制に欠けている ・操法訓練は必要と考えるが、団員が減っていく中、同じ団員が何度も要員になることが負担 など
【団員確保】 7件 ・新入団員がいないので退団できない ・若者に魅力のある特典が無く、今後人付き合いに価値観を持たない世代を、消防団に勧誘するための魅力になるものが必要 ・勧誘時は可能な時の参加で良いと説明を受けたが、入団すると参加を強制される など
【その他】 11件 ・もっといろいろな活動がしたい ・活動スケジュール、日程調整などの周知が遅い など

Q18 あなたが消防団活動に出動できない理由は何ですか
【仕事関連】 14件 ・職場の人数が少ないため ・外回りの仕事なので、町外にいることが多い ・平日は仕事で帰宅が遅く、土日も出勤が多いため、休日は休みたい など
【居住環境】 5件 ・家が遠い など
【家庭等】 11件 ・家庭、学校、育児、地域の事があるため ・プライベート優先 など
【消防団関連】 11件 ・消防団活動より優先すべき事情があるとき ・操法訓練の絶対参加が理解できない など
【その他】 28件 ・予定が合わない ・他に優先すべきことがある場合 など

Q20 京丹後市消防団の組織全体であなたが感じることは何ですか
【操法関連】 28件 ・実用的な訓練がないと思う。操法やめてほしい ・操法だけにこだわる、操法団になっている ・活動時間の大半が操法等の訓練へ偏重している など
【団員の高齢化等】 22件 ・団員不足、新入団員の確保が難しい ・地元で働く団員が少ない ・引退出来ないのが当たり前になりつつある など
【消防団活動、組織等】 15件 ・時代にあった活動、組織になってほしい

・悪いイメージがついてる など

【活動負担等】 21 件

- ・消防団はあるべきでこれからも必要と思うが、活動にあたって家族との時間を犠牲にしていることも踏まえ、訓練時間の短縮や消防団家庭のサービスも考えてほしい
- ・今の時代に合った消防活動をしないと、新規団員ははいらない など

【報酬等】 5 件

- ・ほとんど無報酬であるにもかかわらず、時間的拘束も長く割に合わない など

【その他】 27 件

- ・町(方面隊間)でかなりの温度差がある
- ・各町での範囲で十分 など

Q21 勧誘を断られた主な理由

【操法関連】 20 件

- ・操法訓練が大変と耳にしたから
- ・操法訓練の大変さと、休日の行事が多い
- ・操法がなければ など

【仕事関連】 55 件

- ・仕事が忙しい
- ・仕事と消防の両立が難しい
- ・本業に支障が出る など

【家族等の理解】 42 件

- ・家族の反対
- ・本人に気持ちがあっても、家族や親の理解を得られない
- ・親に断られた など

【消防団のイメージ等】 25 件

- ・消防団に対するイメージが悪い
- ・入団すると訓練が大変で嫌だ
- ・家族の負担や、参加してもメリットがない など

【消防団活動への理解】 58 件

- ・人付き合いが苦手だから
- ・消防団に興味がない、魅力を感じない
- ・自分の時間がなくなる など

【その他】 12 件

- ・昼間は地元地域にいないから火災があっても駆けつけられない
- ・いつまで地元にいるか分からない
- ・入りたくない など

Q22 新入団員を確保するためにあなたが良策と思われるのは何ですか

【操法関連】 8 件

- ・操法訓練の必要性の検討
- ・訓練は週に 1 回までとすべき など

【入退団関連】 13 件

- ・親御さんの同意が得られない

- ・区長等との合同での勧誘
- ・若い子への消防団員イメージの改善 など

【その他】 27 件

- ・少子化対策、市内の人口を増やすこと
- ・消防団活動の社会的地位向上
- ・「地域(居住地)への貢献」という気持ちしかないと思う など

Q23 将来に向けての団員確保方策

【分類無し】 22 件

- ・部、班を縮小し支援隊員を拡充すべき
- ・災害時の活動のみとする
- ・地域として消防団員を出す
- ・消防署の充実 など

その他、書ききれなかった内容やご意見など

【操法関連】 51 件

- ・操法の訓練については必要だと思いますが、大会は廃止すべき
- ・火災、水害等の有事の際にどう対応すべきかの教育等に力を入れて頂きたい
- ・操法の負担が大きく、世間、若者からのイメージが悪い など

【退団・定年等】 21 件

- ・新入団員が確保できないため、長年真面目に活動してきた人が退団できないのでは将来に不安
- ・団員の退団年齢を引き上げる必要もある。操法訓練と指導員がなければ、還暦まで続けられそうな気がします。
- ・部の合併により人が増えたが、人数が多いので誰かが行ってくれるというような意識低下がある など

【活動の負担】 18 件

- ・必要最低限の行事で良い
- ・消防団の活動で 1 番重要なのは、地域の人や財産を守る事。その事を念頭に訓練等を実施して頂きたい
- ・訓練や警戒活動はで必要最低限としていただきたい など

【消防団組織】 15 件

- ・少子高齢化、共働き、男性の育児参加など、時代にあった組織に
- ・指導員経験者として、指導員への負担が大きい
- ・団員の安全性(心理的なものも含んで)の確保がまず第一ではないでしょうか など

【その他】 57 件

- ・仕事等で中々活動に行けないが、行ける時は活動に参加したいです
- ・消火活動、防災訓練などに参加することで地域貢献がしたいと考える同世代や若年層が多く、私も同じように考えます。そのため、コロナ禍で例年のように操法訓練や、懇親会が行われないうことで、以前より活動に割かれる時間が減り負担も減ったと感じます。この度、一般団員からこのように意見を聞いていただける機会を作ってください感謝いたします
- ・消防団員の負担は訓練や火災、捜索活動など、時間的、体力的負担が大きく、参加団員は皆、睡眠時間を削るなどして対応しているため、その分家の中の仕事がおろそかになり、間接的に家族への負担増となります。 など